

三〇、惠那郡鶴岡村大字下手向

一六二

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額(下手向部落)

昭和六年度 一八、〇八〇圓
 同七年度 一八、六一〇圓
 計 三六、六九〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

田	一、一六、一一七 <small>歩</small>	三九人
創設畑	一三、三一六	
計	二九、五〇三	

二、事業實施ノ動機及經過

本村下手向部落ノ耕地ハ他町村地主ノ所有ニ歸シタルモノ多ク、同部落小作人ハ右小作地ヲ買戻シ自作セントスル希望切ナルモノアリ、其ノ機會到來ヲ待望シ居リタル處昭和五、六年ニ至リ農村不況ノ影響ニヨリテ土地價格ハ低下シタルヲ以テ此際土地ヲ購入スルヲ有利ナリト認メ、昭和六年二

月十八日小作人總會ヲ開催シテ櫻井某外五名ヲ交渉委員ニ選ビ、各地主ヲ訪問シテ土地ノ分譲方ヲ懇請シタル處地主モ小作人ノ誠意ニ感ジ、同年四月十二日ニ至リ土地賣買ノ契約成立シタルヲ動機トシ昭和六年度ニ於テ本縣自作農創設資金一萬八千八十圓ノ貸付ヲ受ケ、小作人三十五人ニ對シ田五町七段二十八歩、畑一町一反五畝十一歩ノ自作農地ノ創設ヲナシ、更ニ昭和七年ニ於テ一萬八千六百十圓ノ貸付ニヨリ残余ノ土地ヲ購入スルニ至レリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

小作人ハ本施設ニヨリテ自作農地ヲ取得スルヤ、永年ニ亘ル土地買戻ノ宿望ヲ達成シタルヲ以テ一意農事ノ改良發達ヲ計リ、昭和八年度ニ於テハ村農會技術員ノ指導ノ下ニ醸造米ノ試作ヲナシ、更ニ償還組合ノ設立ニヨリテ相互扶助ノ精神ヲ涵養シ、又貯蓄心ヲ向上スル等其ノ精神作興著シキモノアリ

四、自作農組合ノ現況

昭和六年五月第一次自作農創設資金借受申請後先ヅ以テ償還確保ヲ期スルタメ、同年十二月小作人組合ニ玄米四十八俵ヲ醸出シテ、償還準備金トシテ積立テ自作農組合設立ノ基礎ヲ固メ、昭和七年十一月四日鶴岡村下手向自作農創設資金償還組合ヲ設立セリ、現在組合員ハ自作農九名、自作兼小作農三十名、計三十九名(何レモ資金借受人)ニシテ毎年十二月限り償還年賦金ニ相當スル玄米ヲ代

納セシメ、之ヲ組合ニ於テ換價處分ヲナシ償還金ニ充當スル外備荒貯蓄ノ積立及組合員ノ月掛貯金ヲ實行シ、現在備荒貯蓄四百八十八圓及組合員各自ノ貯金百十六圓ニ達シ益々事業達成ニ努メツツアリ

五、村勢概要

一、民有地	一九一・六町	工業	二五
田	四九・一	商業	二五
畑	二一・二	公務員及自由業	五
宅地	一、三七九・四	其ノ他	六二
山林	二六・七	合計	四五一
小原野	二六・七	三、農業經營狀態	
二、職業別戸數		イ、農家別	
本業	三三四	自作	二五六
副業	四二	自作兼小作	九八
農作業	三三四	小作	二二
養蠶	二三四	合計	三七六
養鶏	一六五	口、耕地別	
林業	一一	自作地	一四三・〇町
其ノ他	八〇	田	三七・三町
水産業	一八七	畑	一八〇・三町

静岡県

三一、富士郡吉永村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額	昭和六年度	二二五、〇〇〇圓
	同七年度	三三八、八〇〇圓
	同八年度	四〇、一〇〇圓
計		一〇三、九〇〇圓
ロ、創設維持別反別及人員		

創設	田	二三一、五二九	一〇六人
維持	田	四六、七二〇	二七人
計	田	二七八、三〇九	一三三人
	畑	一〇九、七二九	

二、事業實施ノ動機及經過

昭和四、五ノ兩年ニ亘リ同村内ニ小作爭議ノ發生ヲ見、全國農民組合ヲ背景トシテ形勢平穩ヲ缺クニ至レルヲ以テ昭和六年村當局ハ小作官ト諮リ、之ガ根本解決策トシテ本資金ノ融通ヲ得テ關係小作人ニ其ノ小作地ヲ自作農地トシテ購入セシムルコトトナシタリ

爾來前掲ノ通年々繼續施行、昭和八年度ヲ以テ爭議關係小作地ニハ全部創設ヲ完了爭議ハ全ク閉塞セリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

農産物ノ暴落ト隣接町村ノ小作爭議ニ影響ヲ受ケ昭和四年秋村内一部落ノ小作人ハ結束農業興振會ナルモノヲ組織シ、地主ニ對シ同年度小作料減額要求ノ團體交渉ヲナシ昭和五年秋更ニ永久減免ヲ要求シ、更ニ小作人ノ一部ハ全國農民組合ニ加盟益々紛糾ヲ見ルニ至ル、村當局ハ之ガ解決ヲ自作農創設事業ニ求メ本資金ノ貸付ニ依リ關係小作人ヲシテ主トシテ大地主關係ノ繫争地ヲ購入セシムルコトトシ六年度十四人八町七反歩、七年度二十人七町五反歩、八年度十人四町歩、計四十四人約二十町歩ヲ創設シ關係小作人ハ全部自作農トナリ爭議ハ根本的ニ終熄ヲ見ルニ至レリ、賣買地ノ價格ニ關シテハ組合長代表トナリ直接地主ニ對シ交渉ヲ爲シタリ、當時土地賣買價格ハ一般ニ反當四百三十圓内外ナリシモ全農支部ハ三百五十圓、興振會ハ三百八十圓程度ノ安價ニテ賣買スルコトニ協定セリ、本施設ニ於テハ全農支部長自ラ一千圓ヲ借入レ三反一畝二歩ノ創設ヲナシタリ、借入後ニ於ケル償還其他ノ成績ハ一般個人貸付ニ比シ統制アリテ償還對策ニ當リ利便多ク農事改良、生産増加等相當顯著ナル成績ヲ納メツツアリ

昭和六年ヲ中心トスル農村不況ニ當リテハ中間据置ノ方法ヲ講ゼザルモ滞納者一名ヲモ出サズ成績誠ニ良好ナリ

四、自作農組合ノ現況

昭和七年四月本資金借受者ヲ以テ吉永村自作農組合ヲ組織シ、現在組合員數百三十四名ニ達シ、償還確保ヲ期スル爲償還金ニ對シ年二割ノ備荒貯金ヲ加ヘ六月三十日(茶ノ收穫時)四分ノ一、十二月二十日(米ノ收穫期)二分ノ一、翌年三月十五日(竹行李加工等ノ副業並ニ勞賃收入)四分ノ一

ノ三期ニ分割醸出シ何レモ個人名義ヲ以テ同村産業組合貯金ト爲シ通帳ハ收入役ニ於テ保管シ本資
 金償還ニ充ツル以外ハ引出ヲ認メズ所定ノ分納期日ト金額ハ嚴格ニ履行シツツアリ、而シテ右凶作
 備荒貯金殘額總計ハ一、四〇八圓九五錢ニ達シ此後斯ル情勢ニテ將來順調ニ進捗スルモノトセバ二
 十四箇年後ノ償還期終了ノ曉ハ毎戸相當ノ餘財ヲ蓄積スベク今ヤ全組合員ハ非常ナル意氣込ヲ以テ
 邁進シツツアリ

尙同組合ノ經費トシテ新加入者ヨリ一圓宛ノ加入金ヲ徴シ現在約百圓ノ積立アリテ將來年々先進地
 視察ヲ計畫シツツアリ

五、町 村 概 要

富士山麓ニ近ク耕地總反別ハ田二百三十町歩、畑五百二十五町
 歩、計七百五十五町歩中昭和六年度本資金借入以前ニ於テ自作
 地三百二十九町歩(全耕地ノ四割一分)ニ過ギズ、而モ年々減少
 テ示シツツアリシガ、本施設實施三年後ノ昭和九年ニ於テハ三
 百六十二町歩(四割八分)トナリ漸次小作地ヲ凌駕スル傾向ニア
 リ、主ナル生産ハ米及茶ニシテ其ノ他竹行李ノ製造、會社關係
 ノ勞賃收入等多少アリ

三二、濱名郡三方ヶ原村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和五年度	二一、五〇〇圓	同	八年度	二四、五〇〇圓
昭和六年度	一、四〇〇圓	計		一〇二、四〇〇圓
昭和七年度	五五、〇〇〇圓			

ロ、創設維持別反別及人員

田	一、四〇一 ^反	計	五〇四人
畑	六五〇、四一八 ^歩		
其ノ他	四二一、四〇一		
住宅	一八三一・三九 ^坪		

維持

畑	八六、九〇一	計	一四人
住宅	一一〇・八〇 ^坪		
耕地	一一六〇、一一二一		
住宅	一九五二・一九 ^坪	計	五一人

二、事業實施ノ動機及經過

大正二年及七年ノ二回ニ亙リ宮内省ニ於テ御料林開墾ノ目的ヲ以テ貸下ゲヲ許可セラルルヤ、近郷

及隣縣三河地方ヨリノ移住者頗ニ増加シ開畑三百町歩移住者百五十餘戸ニ達シ次デ大正十五年右貸
 下地ハ從來ノ小作人ニ對シ即納或ハ年賦金(反當五二圓―九九圓 三箇年―七箇年賦)ヲ以テ拂下ゲラレタリ、然ルニ昭和五
 年ニ至リ農村不況ノ爲メ年賦分納金納入或ハ勸銀又ハ信用組合借入金ノ元利償還ニ支障ヲ生ジタル
 爲、低利ナル本資金ノ融通ヲ以テ此ノ窮地ヲ救ハントシ同年初テメ二一、五〇〇圓ノ融通ヲ受ケタ
 リ、爾後御料地ノ本縣ニ拂下ゲラルルヤ昭和七年度ヨリ向フ五箇年ノ計畫ヲ以テ自作農創設ニ依リ
 同縣有地拂下ヲ續行シツツアリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

昭和七年度ヨリ五箇年繼續事業トシテ毎年二十町歩宛合計百町歩ノ縣有林拂下開墾ヲナシ本事業實
 施前ノ同村農家一戸當耕地僅カニ五反歩ニ過ギザリシヲ、村民ノ生活必要面積一戸當一町歩ニ引上
 ヲ畫ス、現在七年度創設地二十町歩ノ松林原地ハ完全ニ開墾セラレ中四町歩ニ對シテハ揚水機ノ爆
 音朗カニ藪草ノ作付ヲ了シ既ニ第一年度ノ收穫ヲ見タリ、將來ハ右創設地中約四十町歩（一戸當一
 反歩ノ割）ニ對シ農家ノ餘剩勞力利用ノ意味ニ於テ此ノ琉球蘭ヲ植栽シ壘表ノ加工ヲナス計畫ニシ
 テ九年度同作付反當收支概算ハ左ノ如シ、

収入	正平 一六〇圓	二一、五〇〇圓	四〇〇枚	一枚四〇錢宛
支出	一六〇圓	四〇〇枚	一枚四〇錢宛	

支出

肥料費 五〇圓 内金肥 三五圓
 灌水費 一五圓
 織機 四七圓 臨時支出ニ屬ス
 差引益 四八圓

將來本資金ノ償還金ハ主トシテ此ノ壘表ノ共同販賣當日ニ釀出セシムル方針ナリ、尙借受人ノ一部
 ニハ年賦金ノ償還目的ヲ以テ毎年仔豚ヲ飼育シ之ヲ成豚トシテ近接都市濱松市場ニ賣却年々更新シ
 ツツアルモノモアリ、現ニ中間据置ヲ設ケズ一人ノ滯納者ナク生産増加經濟更生ニ資セル點多シ

四、自作農組合ノ現況

組合ハ存セザルモ近ク設立企畫中ナリ

五、村勢概要

縣ノ西端元三方ヶ原御料林ノ所在區域ニシテ、明治ノ初年徳川
 藩士族ノ江戸ヨリノ移住開墾ニ初マリ其ノ後近郷及隣接愛知縣
 下ヨリ移住スル者増加シ現在戸數約五百戸ノ純農村ナリ、御料
 地千四百町歩全村面積ノ三分ノ二ヲ占メ殘餘民有地中尙約三分

ノ一ハ他町村民ノ所有ニ歸シ純小作農家百五十戸ニ達ス、酸土
 強キ開墾畑地多數ヲ占メ主ナル生産ハ茶最多ク小麥、甘藷、大
 麥、藪等ニシテ米ハ村内消費ノ約一割ヲ産スルニ過ギス
 近接濱松市ヨリ人糞、塵芥ヲ利用シ蔬菜、家畜等ヲ販出ス

三三三、引佐郡三ヶ日町

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和二年度	六、〇〇〇圓	同	六年度	八、〇〇〇圓
同	同	同	七年度	九、〇〇〇圓
同	七、五〇〇圓	同	八年度	五、八〇〇圓
同	八、五〇〇圓	計		五二、八〇〇圓
同	七、〇〇〇圓			

ロ、創設維持別反別及人員

田	八二、八二九 ^歩	
畑	六三、一二九	七〇人
創設		
住宅	一〇一九・八二	

二、事業實施ノ動機及經過

耕地ノ分配均等ナラズ多數ノ小作農ハ財界不況ト共ニ經濟極度ニ逼迫シ、轉職ノ止ムナキニ至ルモ
ノ或ハ日雇稼等ヲ以テ辛クモ現状ヲ維持スルノ状態ニアリ、一方凶作ニ際シテハ稍モスレバ地主小

作間ニ紛議ヲ醸サントスル兆アリ、然ルニ土地價格比較的高ク金利又一般ニ高率ニシテ小作農者ノ
土地取得極メテ困難ナリシ折、本資金ノ融通ヲ見ルニ至リ農家經營ノ安固ト堅實ナル農村發達ヲ企
畫シ昭和二年度以來毎年引續キ實施シ現在相當ノ實績ヲ納メツツアリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

本村ハ本施設ニ關スル事務處理其ノ宜シキヲ得ル點ニ於テ縣下模範町村ノ一ニシテ着實ナル進歩ヲ
迎レル外、更ニ昭和八年度ヨリ經濟更生計畫ノ一部トシテ左ノ通り企畫セリ

地目	現在(自昭和七年度至同七年度)		既住實施(六箇年)		將來(向フ五箇年後)		八年度ヨリ増加豫定	
	反別	貸付金額	貸付人員	地目	反別	貸付金額	貸付人員	
田	空・一〇〇	二五、五〇〇 ^円	六人	田	一四、一〇〇	五、七六〇 ^円	八人	
畑	空・三三三	一八、〇六二・八〇	六人	畑	一七、三三三	四、三二八・八〇	六人	
合計	二七、五三三	四三、五六二・八〇	一二	合計	二七、五三三	九、〇七二・八〇	一二	
宅地	六四・二八二	二、四七二・二〇	九人	宅地	二九、二八二	二、九七二・二〇	一〇人	
合計		四六、〇〇〇 ^円	二一	合計		一〇、〇〇〇 ^円	一六	

四、自作農組合ノ現況

事業開始年度ニ於テ設立シ現在組合員數七〇名、資金ノ償還確保ヲ主旨トシ年賦金ノ二割ノ備荒貯

金ヲ併セ毎年六月末日(春蠶期)、九月末日(秋蠶期)、十二月末日(柑橘收穫期)ノ三期ニ三分、同
 村信用組合ニ分割貯金セシム、現在二割ノ備荒貯金ハ組合員總計二千五百餘圓一戸當平均三六圓ニ
 達セリ

但シ養蠶ノ不況ニ依ル償還貯金減收ニ鑑ミ之ガ代用トシテ九年度ヨリ組合員毎戸必ズ二畝歩以上
 (主トシテ柑橘園ノ間作利用)ノ除蟲菊ヲ強制的ニ栽培セシムルコトトシ、之ガ共同販賣代金ヲ以テ
 年賦償還ニ充ツル豫定ナリ

除蟲菊 二畝歩收支

年 度	收 入			支 出			差 引 益
	收 量	實 當 單 價	收 入 合 計	肥 料 代	諸 掛 及 農 具	支 出 合 計	
第 一 年 度	五貫	三・〇〇	一五・〇〇	二・〇〇	〇・六〇	二・六〇	一二・四〇
第 二 年 度	六貫	三・〇〇	一八・〇〇	二・〇〇	〇・六〇	二・六〇	一五・四〇

三 右ノ如ク大體一戸當年賦償還金ノ半額ハ右代金ヲ以テ辨濟サレ殘餘ハ柑橘收入、壘表加工、日雇收
 入等ニ依リ辨濟ノ見込ナリ
 同町役場ニ於テハ九年度勸業費四〇圓ヲ裂キテ除蟲菊種子ノ購入ト組合員中ノ精農家ニ委託シテ一
 町四反歩作付用ノ苗(全組合員七〇名分)ヲ養成無償配布ノ豫定ナリ、農會技術員及精農家ヲ委員ト

愛 知 縣

三四、知多郡上野村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額
 昭和七年度 二二、五〇〇圓
 大正同一年八年度 五、八五〇圓
 計 二八、三五〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

田 八八、四二九^歩 六人
 畑 八二〇 五五人
 宅 地 三、六〇七

二、事業實施ノ動機及經過ト實施後ノ狀況竝效果

本村ハ深刻ナル小作爭議地ニシテ其ノ解決ノ爲ニ本資金ノ貸付ヲ行ヒタルモノナリ其ノ概要左ノ如シ

イ、爭議發生時期

大正十二年

八二〇

五五人

ロ、爭議關係人員

地主三人 小作人一〇六人

ハ、爭議關係地

田二十六町歩

ニ、爭議ノ沿革及其ノ原因

二八、三三〇圖

大正十一年稻作不良ノ故ヲ以テ翌十二年ニ至リ、小作側人ヨリ掬米減額ヲ要求セルモ地主側ニ於テハ之ヲ認メズ荏苒經過セルニヨリ地主ヨリ訴訟ヲ提起スルニ至リ、此ノ結果トシテ爾後不作ノ際ハ收穫檢定ノ方法ニヨリ小作料ヲ定ムル様和解成立ス、超エテ大正十三年早蟲害アリタルニ因リ地主ハ收穫檢定ヲナサムスルヤ、百有餘名ノ小作人ハ手ニ手ニ銳利ナル鎌ヲ持テ大舉シテ之ニ立會ヒタルヲ以テ地主ハ穩ニ取り運ブヲ得ザル形勢ニアルヲ察知シ、民事訴訟法ニヨリ證據保全ノ手段ニ出デタルニヨリ、鑑定人トシテ農事試驗場長始メ縣技師等十二名ヲ指定サレタリ、斯クテ地主ハ證據保全ノ資料ニヨリ既定ノ納米ヲ迫レルモ之ニ應ゼザルヲ以テ再ビ訴訟ヲ提起スルニ至レリ、而シテ一方小作人ハ證據保全ノ方法ハ一部分稍々確實ナルモ其ノ大部分ハ見渡シニヨルモノナルニヨリ、實收量ト異ルコト甚シキモノナリトノ理由ヲ以テ抗辯ヲ續行セリ、而シテ此

ノ間小作官ハ訴訟方法ニヨリテ本事件ヲ繼續スルコトヲ非ナリト見テ、小作側ニ正式調停ヲ申出ホデシメ數次ノ調停ニヨリ遂ニ圓滿解決スルニ至レリ、本村ハ内國津浦線以テ鐵道沿線ニ在リ、然ルニ昭和四年度ニ至ルヤ稻作不良ナリシヲ理由ニ、小作者ハ檢見ノ申入ヲナセルトコロ地主ハ個人々々ナレバ檢見ヲナスモ、團體交渉ハ認メズトテ拒絶セリ、小作者ハ地主ガ其ノ申出ニ應ゼザルヲ理由トシ其ノ儘刈取タリ、斯クテ双方對峙中ナリシガ地主ハ小作者ガ檢見ヲ受ケズ刈取ヲナシタリトテ、全額納付ヲ請求シ小作者ハ前記ノ見解ヲ持シテ減額要求ヲ讓ラズ交渉決裂ヲ見ルトニ至レリ

ホ、爭議ノ經過並結果
一、交渉決裂後地主ハ和解條項ノ蹂躪ニ堪エザル所ナリトテ、徹底的ニ訴訟手段ニ及バントセルモ地主中二名ハ不在地主ニシテ一名ハ支配ヲ在住地主ニ依頼シ全部管理シ來リタル處、過去ノ取扱ヒニ面白カラザルモノアルコト發覺シタルヲ以テ、地主側ノ態度急ニ變化シ村長他一名ノ仲裁者ニ依リ數次ノ協調斡旋ニ盡力セル結果
一、昭和四年度掬米額ニ付テハ支配人檢見査定額ト小作者檢見要求額トヲ基礎資料トナシ略々折衷額(減額平均三割五分ニ相當)ヲ新タニ査定額トシテ之ニ依ラシムルコト
二、將來ハ支配人制度ヲ廢シ地主直接管理ニ當ルコト小作人一同ハ古泉市ノ某村ニ移住スル

等ノ協定成リ將來ノ圓滿ヲ期スル意味ニ於テ地主ハ小作人一同ヲ名古屋市ノ某料亭ニ招待饗應シ隔意ナキ諒解ノ下ニ圓滿解決ヲ遂ゲタリ

而シテ右ノ協調斡旋ハ村長外一名ガ直接關與セリト雖、當初ヨリスベテ小作官ノ指示ニ從ヒテ行動シタルモノニシテ、執拗ナル爭議ヲ根滅セシメムガ爲自作農創設維持資金ニヨリ土地ヲ小作人ニ讓渡スルコトヲ條項中ニ規定セシムルニ至レリ、茲ニ於テ小作者ハ耕作權ノ安定ヲ得愈々地方ノ維持培養ニ心シテ生産ノ増加經營ノ改善ニ精進シツツアリ

三、自作農組合ノ現況

而シテ償還確保並農業改善ヲ期セムガ爲、昭和九年六月左ノ如キ自作農資金償還組合ヲ設置セリ

イ、名 稱 上野村自作農資金償還組合

ロ、事務所所在地 知多郡上野村役場

ハ、設立年月日 昭和九年六月二十八日

ニ、目 的 組合員ノ借入レタル自作農資金元利償還ノ便ヲ圖リ且組合員相互ノ親睦及福利ノ増進ヲ圖ルヲ以テ目的トナス

ホ、團體組織ノ地域 本縣ヨリ資金ヲ借入レタル本村內居住者ヲ以テ組織ス

ヘ、主幹者及主タル關係者ノ職業及役職名

組合長 一名 (組合員) 副組合長 一名 (同)

理事 三名 (同) 幹 事 三名 (同)

ト、團體員ノ種類及數(小作、自作、自小作、地主別)

自作 一五名 自小作 四〇名

チ、設立沿革ノ概要 昭和六年七月十日附ノ縣自作農組合設置獎勵並借受人相互ノ協助發意

ニ依ル設立

リ、資金償還ノ確保、共濟等ノ方法其他事業ノ概要及其成績

- 一、毎年度年賦償還金ノ十一割ヲ毎年七月、九月、十二月ニ於テ其月ノ二十五日迄ニ郵便貯金其他確實ナル方法ニ依リ各組合員個人名義ヲ以テ積立テ年賦償還充當積立金(一割)ハ災害其他ノ事由ニ依リ組合員ニ於テ必要アリト認メタルトキニ拂戻スモノトス
- 二、毎年度一回農業經營其他ニ關シ懇談會ヲ開催スルコト
- 三、組合員相互相戒メ勤勞ヲ尙ヒ自作農地ノ收益増進ニ努メ貯金ノ勵行ヲ期スルコト

四、村 勢 概 要

四イ、戸

内課 一、四七八戸

農業 八八二

商業 二八三

工業 八〇

漁業 二〇

労働業 一四五

雑業 六八

口、土地 一三〇二・五

内課 (外地地一九五、二二〇坪)

畑 田 五六三・〇

山林 五〇四・八

山野 一六一・三

其他 四・五

其他 六八・九

生産 一、六九二、〇〇〇

農産物 七六〇、〇〇〇

内 海 同 五〇、〇〇〇

米 三五五、〇〇〇

柑 橘 八三、〇〇〇

麥 類 六二、〇〇〇

甘 藷 四五、〇〇〇

款 冬 四〇、〇〇〇

チ始メ各種農産物 八〇二、〇〇〇

内 (エ) 工 産 物 一五五、〇〇〇

トマトケチャップ 一六〇、〇〇〇

トマトソース 一四三、〇〇〇

グリーンヒーズ 九〇、〇〇〇

オイシダソース 八七、〇〇〇

蚊取線香 三八、〇〇〇

溜 福 神 漬 四〇、〇〇〇

チ始メ瓦、織物、大根漬、飲料水等 八〇、〇〇〇

内 (ニ) 水 産 物 五〇、〇〇〇

海 同 五〇、〇〇〇

三五、海部郡飛島村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和元年度	四四、四八七圓	同	七年度	二四、一五〇圓
同 二年度	五、四一〇圓	同	八年度	四、〇〇〇圓
同 三年度	二〇、九〇〇圓	同	九年度	一三、一〇〇圓
同 四年度	五五、一〇〇圓	計		一七〇、一四七圓
同 六年度	三、〇〇〇圓			

ロ、創設維持別反別及人員

田	四〇四、六一八 <small>歩</small>
創設	二二、五〇〇
畑	一六一人
宅	六、五二〇
地	

二、事業實施ノ動機及經過

本村ハ農家戸數五百十六戸中自作二戸、自作兼小作二百二十二戸、小作二百九十二戸ニシテ、耕地ハ九百三十八町二反歩中自作地七十二町八反歩、小作地八百六十五町四反歩ナリ、如斯農地ノ分配不均衡ニシテ農事改良上竝農村社會上ニ及ボス惡影響尠カラザルヲ以テ之ガ改善ニ努メムトセルモ、貧農ニシテ蓄財乏シク且資金ノ調達思ハシカラザルモノアリテ其ノ運ニ至ラザリキ、偶々農林省ニ於テ自作農創設維持補助規則公布セラレ資金融通ノ途確立セラルルニ至ルヤ、村長ハ耕作者ヲシテ本事業ノ特典ニ浴セシメントシテ、地主竝ニ縣トノ連絡ヲ圖リ上述ノ如キ成績ヲ舉グルニ至レリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

昭和元年度ヨリ引續キ自作農創設維持事業ヲ實施シツツアルガ、資金ノ借入者ハ從來ノ純小作時代ニ比シ一層ノ緊張ヲ以テ一家協力家業ニ精勵スルニ至リ、昭和七年本村ニ於テ統制的經濟更生計畫樹立セラルルヤ、此等自作農家ハ各部落ニ於ケル先達トシテ進ンデ村計畫ヲ勵行スルコトナリ、

左記諸事項ニ付夫々實效ヲ收メツツアリ

イ、二毛作増産

水稻裏作トシテ菜種栽培面積ヲ増加シ其ノ他ノ裏作物ヲ選定作付スルコトハ餘剩勞力ノ利用ト土地ノ集約的利用ヨリ見テ本村ニ於テハ農業經營上極メテ重要トス、仍テ菜種ヲ一戸當面積二反六畝收量反當五斗ヲ増加スルコトヲ目標トシ、之ガ實行方法トシテハ栽培方法栽培標準ノ指示、指導園ノ設置、増殖競技會ノ催開、検査手數料ノ補助等ヲナシツツアリ

ロ、田植竝ニ稻作ノ改善

本村ニ於テハ田植ニ要スル人夫竝ニ馳走等ニ要スル冗費莫大ノ額ニ上ルヲ以テ、之ガ改善對策トシテ一戸當人夫九人馳走料十四圓ノ節約ヲ目標トシ共同一致之ガ實行ヲ期シツツアリ、而シテ其ノ方法トシテハ各實行組合ヲ單位トスル實行年次計畫ヲ基調トシテ該年度ニ於ケル經濟ノ推移、各農家ノ地理的状況等ヲ考慮シ實行事項ヲ村一般ニ指示スルノ外、田植改善競技會ノ開催ヲナスト共ニ稻作ノ合理的改善ヲ計畫セリ、即チ之ガ爲ニハ品種選擇、種子豫措、育苗、肥料、中耕除草、病蟲害驅除豫防、刈取調製乾燥、貯藏、販賣等各般ニ亘リ夫々改善ニ努メツツアリ

ハ、肥料改善

農業經營費中特ニ重要部分ヲナスベキモノハ肥料費ナルニ不拘、從來之ニ對スル關心ニ乏シキモ

ノアリ、即金肥萬能ノ弊ニ陥リ又ハ其ノ購入方法、配合等ニ於テモ極メテ不合理ニシテ、之ガ爲
 農家ノ受クル損失ハ莫大ナルモノアルニ依リ、夫々自給肥料増殖、金肥購入法ノ改善等ノ計畫ヲ
 樹立シ大イニ其ノ實效ヲ期シツツアリ、先ヅ農家ヲシテ堆肥ノ増産、藁灰利用、綠肥栽培ノ増加、
 鶏糞増加、海草、海泥藻ノ利用等ヲ爲サシムルト共ニ肥料配合計畫ニ付テハ土質圖ニ依リ本村ヲ
 土壤ノ上ヨリ五區ニ分チ、土質ニ適合セル肥料配合ヲ實施シツツアリ、而シテ之等ノ實行方法ト
 シテハ綠肥種子ノ共同購入、青刈大豆ノ栽培及施用、模範田ノ設置、堆肥増産競技會ノ開催地力
 増進田ノ設置、鶏糞ノ共同購入、共同育雛場ノ設置等ヲ爲シツツアリ、
 ニ、土地ノ改良
 土地ノ改善ハ農業生産ノ根源ニシテ農業經營上重要ナルハ言ヲ俟タザル所ナリ、今本村ノ實狀ヨ
 リ之ヲ考察スルニ、排水設備ノ完成ハ土地集約的利用上焦眉ノ急ニシテ、殊ニ海邊ニ面セル水田
 ノ鹽害對策ハ特ニ重要ナルモノナリ、加フルニ多年慣行セル不合理ナル施肥法ハ土地ヲ極度ニ酸
 性化セシメタレバ右ト相俟ツテ其ノ被害尠カラズ、茲ニ於テ排水機ノ設置、鑿泉ノ増加、鹽害抵
 抗性品種選定、試驗田設置、酸性土壤ノ改善等諸種ノ方策ヲ講ジ之ガ完璧ヲ期シツツアリ、
 ホ、自給經濟ノ確立
 農業經營ノ特質タル非資本主義的勞作勤勞小經營農家ニ在リテハ、自給程度高キ程經濟力ノ餘裕

大ナルハ言ヲ俟タザル所ナルヲ以テ、先ヅ農家必需品タル醬油四斗、味噌十貫、海苔簀一〇割、
 依繩一〇割ノ自給増産ヲ目標トシ之ガ實行ニ邁進シツツアリ、而シテ之ガ實行促進ノ手段トシテ
 ハ共同醸造場ノ設備、副業競技會ノ開催等ヲナシ着々其ノ實效ヲ收メツツアリ、
 ヘ、産業組合ノ利用

産業組合員ノ分野ガ漸次小作農ノ自作化ニヨリテ自作農家中心ニ傾キ、生産、消費、販賣各部門
 ニ亘ル統制上其ノ機構ガ合理的組織ニ變更シツツアル外、從來小作、自作對立ニ因リ動モスレバ
 醸出シタル軋轢ヲ解消シテ組合各部門ニ於ケル相互連繫ニ其ノ效果ヲ顯シ、經濟更生達成上ノ基
 礎的要件ヲ具現シツツアリ
 ト、精神作興等ニ資シタルモノ
 土地ヲ所有セルニ基キ耕作權ノ安定ヲ得健實ナル氣風ヲ醸出シテ部落融和、農村自治ノ圓滿ナル
 發達ヲ見タルノミナラズ、農業經營ニ關スル眞摯ナル態度乃至研究心ハ延イテ農業教育上及各種
 事業ノ施設ニ對シ一層ノ成果ヲ顯シツツアリ

四、自作農組合ノ現況

- イ、名
- ロ、事務所所在地

飛鳥村自作農資金償還組合
 海部郡飛鳥村産業組合

ハ、設立年月日

昭和九年三月一日

ニ、設立沿革ノ概要

昭和六年七月十日付縣自作農組合設置方獎勵ニ基キ設立ス

ホ、團體組織ノ地域

本縣ヨリ資金ヲ借入レタル本村內居住者ヲ以テ組織ス

ヘ、主幹者及主タル關係者ノ職業及役職名

- 組合長 一名 村長
- 理事 三名 組合員 二 村會議員 一
- 幹事 二名 村吏員 一 産業組合事務員 一
- 評議員會 一〇名 組合員ノ互選

ト、團體員ノ種類及數(小作、自作、自小作、地主別)

小作 一六一人 自作 一六一人

チ、目的

組合員ノ借入レタル自作農資金償還ノ便ヲ圖リ且ツ組合員相互ノ親睦及福利ノ増進ヲ圖ルヲ以テ目的トナス

リ、資金償還ノ確保、共濟等ノ方法其他事業ノ概要及其成績

一、毎年度年賦償還金ノ十一割ヲ毎年八月、三月、十二月ニ其月ノ十日迄ニ其ノ三分ノ一宛ヲ各組合員個人名義ノ郵便貯金ヲ以テ積立

ツルモノトス但シ評議員會ノ決議ニヨリ積立月ヲ變更スルコトアルベシ

而シテ年賦償還充當積立金ハ毎年償還期ニ拂戻シ非常積立金(一割)ハ災害其他ノ事由ニ依リ評議員會ニ於テ必要ナリト認めタルトキニ於テ拂戻スモノトス

- 一、毎年度一回以上農業經營其他ニ關シ懇談並研究會ヲ開催スルコト
- 一、組合員ハ相互相戒メ勤勞ヲ尙ビ自作農地ノ收益増進ニ努メ貯金ノ勵行ヲ期スルコト

四、村勢概要

イ、戸數	五七七	其他	二二三
内課		ロ、土地	一〇八八・六
農業	五二六	(外宅地二二、二〇〇坪)	
商業	一九	畑	八三〇・〇
工業	一六	池沼	五八・七
漁業	三	原野	一三七・〇
			一四四・〇

其他	一八・九	内	一四・〇〇〇
ハ、生	六一、〇〇〇	チ始メトス	七、〇〇〇
(イ)農	五二、〇〇〇	チ始メトス	八三、〇〇〇
内	四五二、〇〇〇	(ハ)農水産加工品	六三、〇〇〇
米	一七、〇〇〇	内	一〇八、八〇〇
内	二七、〇〇〇	其海	六一、〇〇〇
ナ始メ各種農産物		繩	二、〇〇〇
(ロ)水			
産物			

三六、渥美郡杉山村六連

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額
昭和七年度
六、三五〇圓

ロ、創設維持別反別及人員
創設 畑 八名

二、事業實施ノ動機及經過

本縣ニハ未ダ酸性反應ヲ呈スル未耕地三萬町步餘存在スルヲ以テ、コレ等未耕地ノ生産力ノ増加ト農場設置ヲ計ル目的ヲ以テ十數年前ヨリ其ノ具體的方法ノ研究ニ努力セル結果、略々其ノ方策ヲ明カニスルヲ得昭和六年ヨリ此等未耕地ノ開發ニ着手シタリ其ノ方法ハ

イ、開墾可能ノ未耕地ニ對シ年令二十歳以上、三十歳未滿、普通教育ヲ受ケ自身強健意志強固ナル青年ニシテ父兄ニ於テ多少ノ開拓資金ノ支出可能ナルモノヲ選拔シ、六ヶ月間開發地經營ニ適シ得ル教育ヲ授ク

ロ、右ノ課程ヲ終了シタル上ハ豫メ選定セル開發豫定地ニ移住セシメ、土地二町步内外ヲ自作農創設維持資金ノ融通ヲ得テ購入セシメ、其土地ノ開墾ヲ可成速急ニ行ハシム

ハ、移住地ニハ可成耕地整理組合ヲ設立セシメ國竝縣ノ助成ヲ得セシム

ニ、右移住地ハ大體十人ヲ一團トシテ一部落ヲ作ラシメ、各部落毎ニ農事試驗場職員一名宛ヲ駐在移住セシメ總テノ事業ノ指導統制ニ當ラシム

ホ、設定區域ハ縣内ニ於テ未耕地多ク又ハ生産力不良ナル耕地ノ多キ地方ヲ選定スルコト

而シテ昭和六年度以降毎年一乃至二部落宛ヲ自作農資金ノ供給ヲ得テ目下五部落ヲ設定セルモノニシテ其ノ地域ハ左記ノ通り

渥美郡杉山村六連

渥美郡二川町三谷

碧海郡上郷村鷺嶋

知多郡東浦村緒川

西加茂郡三好村三好

杉山村ハ渥美郡ノ中央ニ存在シ第四紀古層ノ不良土地帯ニ屬シ、同郡四千余町歩ノ不良土ハ其ノ改善如何ニ依リテハ將來生産狀況、惹テハ社會情勢ニ大ナル變化ヲ來タスモノナルヲ以テ、當地ヲ其ノ指定地區ニ選定セルモノナリ、而シテ此ノ部落ノ敷地トナレル處ハ、十余年前開墾セラレシモ地味瘦薄ノ故ヲ以テ放置セラレシ結果、元ノ原野ニ還元セルヲ以テ特ニ此地ヲ選定シ、昭和六年十二月末八名ノ實習生ヲ移住セシメ、翌七年一月末ヨリ開拓ヲ始メタリ。

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

イ、開墾ノ成功ト其ノ影響

昭和七年一月鍬入開墾ニ從事シ逐次耕地ニ小麥ヲ作付セルニ相當ノ成績ヲ收メタルヲ以テ、之ニ勢ヲ得、四月南瓜、西瓜、胡瓜、馬鈴薯、甘藷等ヲ夏作トシテ栽培セル所、成績見ルベキモノアリシヲ以テ、秋大根及白菜ヲ採種シ又相當ノ結果ヲ得タリ、併シ尙充分ナル結果ヲ擧ゲ得ルヤ否ヤ疑問ナリシヲ以テ極力移住者ヲ督勵スルト共ニ作付ニ注意ヲ拂ヒ、同年秋ニハ小麥蒔付ニ全力ヲ盡スト同時ニ冬季開墾ヲ督勵シ、八年四月迄ニ各人ニ付一町六反歩余ヲ拓クヲ得タリ、斯クシテ八年六月ニ至リテ小麥ノ收穫意外ノ良好ヲ見、多キハ四十俵、少キモ二十俵ヲ收メ、其他西瓜、

南瓜、馬鈴薯、甘藷等ノ栽培ニ努メタリ、而シテ之等作物中特ニ西瓜ハ其ノ味良好ニシテ市場ノ好評ヲ得、收入モ亦多キモノハ反當百圓一戸當三百余圓ヲ收納スルノ良好ナル成績ヲ納メ、更ニ秋作ノ大根及白菜ノ作付成績モ亦良好ニシテ殊ニ白菜ノ如キハ尾張地方最良ノ生産地ヨリ數等良好ノ結果ヲ擧グルヲ得小麥モ亦收量多ク、反當八俵(三石二斗)ヲ收メ得タルモノモアリテ、總ベテノ作付ニ於テ豫想外ノ成績ヲ得タリ、斯クシテ八年度ノ粗收入一戸當平均八百八十餘圓、多キハ千二百圓余ニ及ビタルニカラ致シ、九年度ニ於テハ白菜播種、早作豌豆、西瓜、甘藷、茄子、南瓜等ノ蔬菜ニ加フルニ豚飼育ニ依ル仔豚ノ販賣及厩肥ノ利用並牛ヲ飼育シテ其ノ勞力ト厩肥ヲ利用スル等多分ニ有畜化ノ色彩ヲ加ヘタル爲、本年ハ最高粗收入千八百圓餘ヲ擧グルモノアルベシト思ハレ平均一戸當一千圓ノ收入豫想確實ナリ

從來杉山村ハ農家五三〇余戸ノ農漁村ナルモ從前ヨリ意氣消沈何等進取ノ氣銳ナク、殆ンド沈滞ノ底ニ轉落スルヤヲ思ハシムル村落ニシテ、夏季ニ於テ市場ニ搬出スル蔬菜類ハ僅カニ自家需要ノ殘餘ヲ各自轉車ニ積ミテ販賣セル程度ナリシモ、昭和八年夏ハ移住部落ノ青年ニ依リ統制アル出荷ヲナシ西瓜、南瓜、大根、白菜、甘藷等ハ全村出荷量ノ數倍ニ及ビタル爲、村民ハ脅威ノ眼ヲ開キ爾來村民ノ之ニ習フモノ日ニ増加シ九年度ニハ漸次新部落民ノ經營様式ヲ模倣シ農作法及販賣法ヲ改良セシモノ尠カラズ、即渥美郡農會ノ農產物出荷統制ノ如キハ一昨年ニ比シ昨年ハ

一躍二倍以上ニ増加セルハ郡農會ガ出荷ノ統制ヲ圖ラムトスル作物ニ對シテハ、先ヅ杉山村新部落民ノ販賣統制ヲ圖リテ其ノ成績ヲ公表シ以テ一般農家ノ出荷ヲ促進セシムル如キ方法ヲ採リシ爲ニ外ナラズ又西瓜、大根ノ東京市場ヘノ進出、特ニ澤庵漬大根ノ如キハ全ク新部落民ノ犠牲的努力ニ依リテ新販路ヲ得タルモノニシテ、將來益々其ノ進出ノ期待サルモノ尠カラズ、如斯ニシテ統制栽培、統制販賣ノ有利ニシテ且必要ナルヲ近隣農村ニ認識セシメ得タルハ全ク開墾移住地設定ノ結果得タル新シキ教訓ナリト云ヒ得ベキナリ

ロ、精神作興其ノ他ニ及ボシタル影響
而シテ之等自作農者ハ毎朝五時ニ起床、國旗掲揚裡ニ皇居及大廟禮拜ヲ行ヒ村歌ヲ合唱シテ後、各自ノ農耕ニ就キ村民ノ農地ニ出耕スル頃ニハ既ニ一段ノ勞働ヲ了シ居ル如キ状態ニシテ、其ノ勤勉ナル努力振リト眞面目ニシテ農業ヲ愛好シ皇國民ノ食糧供給ノ大任ヲ果スノ純真ナル態度ハ統制アル農耕法ト相俟チテ附近農家ノ精神作興ニ多大ノ刺戟ヲ與ヘツツアルコトハ否ムベカラザル事實ナリ、又星ヲ戴イテ歸リ夜食後更ニ夜半迄働ク者ノ如キハ正シク其ノ努力ニ超人的ノ感ヲ與ヘシムルモノナリ、又監督者ノ指導下ニ一絲亂レヌ奮闘ハ他ニ見ルコトヲ得ザル統制振リニシテ之ガ纏テ十數年ヲ經ルニ非レバ開墾地ノ獨立經營ヲ期シ得ザル從來ノ先例ヲ破リテ、繼開墾後二年、三年ニシテ既ニ完全ナル獨立自營ノ基礎定レルノ自負ヲ抱キ得ル基點ニ非ザルヤノ感ヲ深

クスルモノナリ

五、斯ノ如クニシテ開墾移住自作農者ノ眞摯ナル努力ト勤勉倦ムコトナキ農耕ニ加フルニ、統制アル指導下ニ營マルル多角形經營法ガ現下農業ノ窮狀ヲ打開シテ、新開墾地ト雖、其ノ方法宜シク勤勞的農耕法ヲ執ルニ於テハ何等失敗スルコトナキヲ證シ得ル端緒トテ證據トテ社會ニ與ヘ得タルハ、廣ク土地政策ノ爲ニ幾何カノ貢獻ヲ爲シ得タルモノト言ハザルベカラズ

四、自作農組合ノ現況

- イ、名 稱 杉山村自作農資金償還組合
- ロ、事務所所在地 渥美郡杉山村役場
- ハ、設立年月日 昭和八年三月三日
- ニ、團體員ノ種類及數 自作 十八名 自小作 二名
- ホ、主幹者及主タル關係者ノ職業及役職名
- イ、組合長 一名 副組合長 一名
- ロ、理事 三名
- ハ、幹合員 六名

一、目的 組合員ノ借入レタル自作農資金元利償還ノ便ヲ圖リ且組合員相互ノ親睦及福利ノ増進ヲ圖ルヲ以テ目的トナス

二、團體組織ノ區域 本縣ヨリ資金ヲ借入レタル本町村内居住者ヲ以テ組織ス

三、資金償還ノ確保共濟等ノ方法其他事業概要及其ノ成績

一、毎年度年賦償還金ノ十一割ヲ毎年ノ七月、九月、十二月ニ其月ノ

十日迄ニ郵便貯金其他確實ナル方法ニ依リ各組合員個人名義ヲ以

テ積立テ年賦償還充當積立金(一割)ハ災害其他ノ事由ニ依リ組合

員ニ於テ必要アリト認めタル時ニ拂戻スモノトス

二、毎年度一回農事經營其他ニ關シ懇談會ヲ開催スルコト

三、組合員相互相戒メ勤勞ヲ尙ビ自作農地ノ收益増進ニ努メ貯金ノ勵

四、自作農組合ノ設立

昭和六年七月十日附ノ縣自作農創設維持資金償還組合設置獎勵ニ基キ

設立沿革ノ概要

設立ニ當リテ必要ナル資金ノ充當ニ努メ

五、村勢概要

イ、戸數 四八八戸

内課 四四九

農業 四四九

(自作二五〇戸、自小作二二七戸、小作一七戸)

工業 四

商業 一、二八〇

漁業 三

雜業 二二

口、土地 五一、四一八・四

(外宅地一〇五、六二五坪)

田 二三一〇

畑 三六九〇

山林 五一六・四

原野 三七〇

池沼 二六五・〇

ハ、生産 三七〇、〇〇〇

(イ) 農産物 二〇三、〇〇〇

内 米 八三、〇〇〇

蕎麥 七八、〇〇〇

チ始メ各種農産物

(ロ) 畜産物 二二、〇〇〇

鶏卵 二二、〇〇〇

(ハ) 工業品 三三、〇〇〇

酒類 二七、〇〇〇

チ主トシ瓦、醬油等

(ニ) 水産品 一一〇、〇〇〇

鰻 七五、〇〇〇

海苔 一〇、〇〇〇

イワシ 七、〇〇〇

チ始メ諸水産物

開催其他ノ手段ヲ講ジ地主側ヲ脅威シ(數人ノ刑事被告人ヲ出ス)地主側ハ之ニ對シ訴訟手續ヲ採リ紛爭中、大正十四年十月小作側ヨリ小作調停ノ申立ヲナシ、委員會開催十數回ニ及ビタルモ双方ノ主張強硬ニシテ一致點ヲ見ズ一時不調トナリタルモ、地主ハ三、四ケ年間小作料ノ不納ニ依リ訴訟費、公課等ノ支拂ニ支障ヲ來シ、小作人モ亦諸種ノ費用ヲ要シタル爲小作料以上ノ支拂ヲ爲シタル結果稍々調停合意ニ傾キ、加フルニ村當局、駐在巡查、縣小作官等双方ノ意志緩和ニ努力スル處アリ、遂ニ昭和二年ニ至リ双方ノ意見接近スルニ至レルヲ以テ、同年更ニ合意調停ノ申立ヲ爲サシメ調停ニ努メタル結果、多年ノ紛爭モ漸ク解決ヲ見ルニ至レリ

此ニ於テ村當局ハ將來ニ對スル小作爭議ノ防止策トシテハ、本資金ノ貸付ニ依ル自作農創設策ヲ理想トシ之ガ勸奨ニ努メタル結果、小作人側ニ於テモ進ンデ希望申出アリ、昭和二年一名ニ對シ貸付タルヲ始メトシ以後年々地主ノ財政上賣却スル土地續出シ、又土地返還ノ申立ヲナスモノアリ小作人ハ耕作地ノ減少ヲ虞レ土地ノ購入ヲ望ミ、漸次資金借入希望者増加シタルニ昭相七年ニ至リテ農産物價ノ暴落ニ依リ幾分希望者ノ減少ヲ見タルモ、引續キ相當ノ自作地ヲ創設シツツアリテ漸次其ノ數ヲ増加シタリ、而シテ借入者ハ組合ヲ組織シ専ラ農事ノ改良及生産ノ増加ヲ企圖シ、又償還ノ嚴守ヲ圖リツツアリ、一面轉貸者ハ思想改善ノ實ヲ舉ゲ、小作問題ハ未ダ絶無ノ域ニ達セズト雖件數竝程度ニ於テ極メテ輕少ニ止マルニ至レリ

四、自作農組合ノ現況

組合設立年月日 昭和四年十月三十日

組合區域 小村 一圓

組合員數 七十八人

積立時期 年一回(十二月) 但シ養蠶家ハ六月ニ七分十二月ニ三分

年賦償還金積立額 一、三〇五・一九

凶作準備金積立額 九九一・八四 (昭和九年九月一日現在)

五、村勢概要

一、全戸數	五二四	二、耕作地反別	內自作地
農業戸數	三五八	田	一九〇二、三
内自作	七〇	畑	二〇〇、四
自作兼小作	一五一	計	二一〇二、七
小作	一三七		

三八、北牟婁郡二郷村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和五年度	五、九〇〇圓	同	八年度	一、九〇〇圓
同六年度	九、三〇〇圓	計	同九年度	二二、二〇〇圓
同七年度	五、一〇〇圓			

ロ、創設維持別反別及人員

創設	田	三七、六二五	歩	九人
	畑	五、七〇七		九人
維持	田	三三、一〇六		九人
	畑	六、九二九		九人
計	田	七〇、八〇一		三一人
	畑	一二、七〇六		三一人

二、事業實施ノ動機及經過

昭和五年同村ノ大地主某其ノ小作地ノ一部ヲ分讓スル旨ヲ洩スヤ、小作人ニ於テ之ヲ購入セムトセ
ルモ資金ナク、偶々本村ニ於テハ土地分配其ノ他ノ狀況ヨリ、小作人ニ多少トモ耕地ヲ所有セシメ
四漸次自作農家タラシメ、又自小作人ヲシテ完全ナル自作農タラシムベク誘導スルハ、緊要且時宜ニ

適シタル施設ナリトシ、豫テ着眼シ居タル處ナリシヲ以テ右地主ノ分讓ヲ機會トシ本資金五千九百
圓ヲ小作人七名ニ轉貸シ一町四反歩ヲ購入セシメタルニ、其ノ結果頗ル良好ニシテ年々資金ノ借入
希望多ク今日ニ及ベリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

爾來累年本資金ヲ轉貸シ、現在其ノ金額二萬二千二百圓、人員三十一人ニ達セリ、其ノ人員創設維
持シタル耕地ヨリ見レバ敢テ大規模ナリト云フコト能ハズト雖、特ニ推賞スベキハ同村自作農組合
ニシテ、同組合ハ償還金ノ確保、凶作準備貯金ヲナス爲別紙規約ニ依リ、昭和五年十二月二日設立
セルモノニシテ、其ノ事務ノ處理整然タルコト、組合員ノ指導宜シキコト縣下有數ノ組合ニシテ組
合員ハ克ク一致團結シ、本資金償還ニ對スル觀念ノ鞏固ナルコト他ニ多ク其ノ例ヲ見ザル所ニシテ、
年三回ノ組合納入金ニ對シ一人ノ怠ルモノナク、現在(九月二十日)ニ於テ償還ノ爲ノ積立金六八二
圓五八、凶作準備金四四七圓六八ニ達セリ

右ノ如キ狀態ナルヲ以テ借受人ハ何レモ農事ニ精勵シ、地力ヲ培養シ生産ノ増加ヲ圖リ成績極メテ
良好ナルモ特ニ顯著ナルハ字城ヶ濱ノ經濟更生ノ實例ナリトス
同字ハ二郷村役場(紀伊長島驛)ヲ去ル東方一里、三方山ニ圍マレ一方海ニ面シ戸數僅カニ四戸交通
不便ナル僻地ナリ、今ヨリ六十年前同村ノ人此ノ地ニ約三町歩ノ耕地ヲ開墾シ、後其ノ部落ノ人ニ

小作セシメタルモ、他ノ部落ヨリ耕作スルコト不便ナルニ乗ジ、地主ニ對シ小作料減額ヲ要求シ屢々紛擾ヲ醸シ、終ニ同地ノ小作人之ヲ購入シタルモ資金ナク他ヨリ之ヲ借入レタル結果、年々多額ノ返済ニ困窮シ此ノ儘推移セムカ終ニハ折角ノ耕地モ再ビ賣却シ、他ニ移住セザルベカラザル状態トナリ、大イニ憂慮セルトキニ當リ、昭和六年本縣ニ於テ維持資金貸付ノ制度開ルルヤ此ノ恩典ニ浴シ一ケ年間ノ償還金ニ付テ六八ニ減ナリ

半三回ノ借入金ニ據リ一人ノ從前借受ノ場合 借替現在ノ場合
合計 甲、一借 受 本人 一九六、六二〇、
乙、借 受 本人 一七三、四〇〇、
右ノ減額トナリ、且漁業林業等ト併セ相當ノ餘裕ヲ生ジ、此處ニ於テ更生ノ曙光ヲ認メ欣喜勇躍耕地水路ノ改修、地力ノ増進等ニ力ヲ盡シ、本資金借入後日尙淺キニ拘ハラズ、同字借受人(一名)ノミニテ百圓余ノ凶作準備金ヲ村自作農組合ニ積立テ益々農事ニ精勵スルニ至レルガ如キハ其ノ一例トス

五、村勢概要

北牟婁郡二郷村ハ東錦村ニ北ハ峻嶮荷坂峠ヲ堺トシ、度會郡大内山村ニ接シ、西ハ赤羽川ヲ隔テ赤羽村長島町ニ連リ、南名

倉灣、太平洋ニ臨ム東西一里南北一里面積一平方里弱戸數五百六十戸人口二千八百六人農家戸數ニ對スル小作戸數ノ割六八%

自作地ニ對スル小作地ノ割合二八%ニシテ、紀州方面トシテハ

畑 六五五、〇〇

土地ノ分配比較的良好ナラズ

一、農家一戸當耕地反別 七、五〇

一、耕地 反別

七七九、〇〇

滋賀縣

三九、東淺井郡竹生村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和五年度	二〇、〇〇〇圓	同	八年度	二〇、〇〇〇圓
同 六年度	一八、一〇〇圓	計		七八、一〇〇圓
同 七年度	二〇、〇〇〇圓			

ロ、創設維持別反別及人員

創設		田	221、518 ^反	1人
畑		田	22、029	
宅地		田	1、401	
維持		畑	25、020	1人
田		畑	4、919	
計		田	246、608	
畑		田	27、018	
宅地		田	1、401	158人

二、事業實施ノ動機及經過

竹生村大字稻葉、小觀音、弓削等ハ其ノ小作地面積他部落ニ比シ著シク多ク、特ニ稻葉ニ於テハ自作地十三町七反歩、小作地十八町三反歩ニシテ、其ノ小作地ノ内不在地主ノ所有小作地十一町歩ニ及ビ爲ニ小作側ハ自作農家ト共ニ灌漑設備ヲ地主側ニ要望スルコト久シキモ、多クハ縣外ノ不在地主ノ所有ナレバ實施ニ至ラズ、故ニ耕地愛護ノ念乏シク施肥管理完カラズシテ、年々秋收期ニ際シテハ減收ノ結果小作料一時的減免ヲ要求シ爭議ノ頻發ヲ來シ之ガ解決困難ヲ極メ、農家ハ益々疲弊困憊シ諸稅公課ノ納入スラ甚ダ不良トナリシヲ以テ、村當局ハ自作農創設事業ニ依リ之ガ改善ヲ計

畫シ、昭和五年度ニ事業ヲ開始シ、昭和八年度迄ニ村當局ノ斡旋ニヨリ農家戸數二十三戸ノ内二十戸ニ對シ創設シ、不在地主ノ耕地ヲ購入セシメ着々事業ヲ進捗シ、目下七町余ノ自作農地ヲ創設セシムルニ至レリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

大字稻葉ニ於テハ昭和五年度(本資金貸付)以來資金借受者一同協議ノ上、農事ニ精勵スルコトヲ誓約シ、且農事改良ノ遂行ヲ目的トシテ大字内全農家ヲ以テ農業組合ヲ組織シ、縣農會指導ノ下ニ施肥圃地指導田ヲ設ケ、稻作肥培管理ノ改良ニ努メ、又村農會ハ稻採種圃ヲ設置シ品種ノ改良統一ヲ圖リ更ニ昭和八年ニハ縣ヨリ補助金ノ交付ヲ受ケ、匡救事業トシテ小灌漑排水設備ヲ行ヒ灌漑ニ便シ、裏作ヲ増殖シテ小麥、紫雲英ノ増産ニ努メツツアリ、尙縣ニ於テハ昭和三年以來毎年八月二十五日ヨリ一週間ヲ耕地愛護週間ト定メ、縣下一齊ニ耕地ノ淨化、自給肥料ノ増産、害蟲驅除等ヲ勵行シ來リシガ、本大字ニ於テハ年々右期間内老若男女特ニ青年團處女會等共同一致耕地愛護ニ專念シ、興農精神ノ作興ニ資シタルヲ以テ、其ノ成績顯著ナリトシテ昭和七年以來年々縣農會長及郡農會長ヨリ賞狀ヲ授與セラレツツアリ、尙近時農事ニ精勵ノ結果生産頓ニ増加シ、從來ノ面目ヲ一新セシヲ以テ一昨年ヨリ全ク小作爭議ヲ見ザルニ至リ、納稅成績ノ如キモ著シク向上スルニ至レリ

四、自作農組合ノ現況

一時減免ノ爭議ヲ再發シ、尙小作人幹部ハ玉津村各大字ノ爭議ヲ統制スベク玉津村小作聯合會ヲ組織シ、其ノ地域益々擴大シ縣下ニ於ケル爭議地中有數ノ地ト化シ、地主モ之ガ對策ニ腐心シ共有地小作料改訂ヲ急速ニ實施シ其ノ癘腫ヲ艾除セント焦慮スルニ至レリ

昭和二年大字區民ノ總會決議ニ基キ小作料改訂ヲ小作者側ニ憐愍セルモ、小作者側ハ小作權ノ賠償ヲ主張シテ讓ラズ、徹宵協議ヲ重ヌルコト數次漸ク昭和三年三月二十八日關係小作地ノ約三分ノ一ヲ處分シテ、本縣自作農創設資金壹萬壹千圓ヲ借入レ、現小作人中資力乏シキモノ十三名ヲ撰定シテ之ヲ所有セシメ、其ノ賣却代金ヲ以テ小作權賠償費、耕地改良費償還金及作離料等ヲ支給シテ普通小作料ニ改訂セシム可ク調停方針ヲ定メ、同年十二月十五日大字會議所ニ小作調停委員會ヲ開催シ調停成立シ、三十年來紛爭ヲ重ネタル共有地小作料改訂問題モ漸ク無事解決シ當地方小作爭議解決ノ曙光ヲ認ムルニ至レリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

爾來大字赤野井ノ主ナル地主ハ其成績ニ鑑ミ、一般小作地モ共ノ有地ニ準ジ小作料ヲ改訂シ小作契約ヲ確保シ爭議ノ苦難ヲ免ルベク、昭和四年小作料一時減免爭議ニ際シ、翌五年五月一日主ナル地主ヨリ小作調停ノ申立ヲナシ、小作料及小作契約ノ改訂ヲ了シテ今後ノ農村平和ヲ確保シ、次デ残余ノ地主ハ同年九月十五日小作調停ノ申立ニヨリ、同一條件ニテ小作契約ヲ確保シ、爾來全ク爭議ヲ

一掃セシヲ以テ玉津村全村ニ亘リ地主側何レモ赤野井ニ準ジ、小作契約ノ改訂ニ依リ、地主小作人間ノ協調ヲ熱望シ、次ノ如ク續々調停ノ申立ヲナシ玉津村小作地ハ全部小作契約ヲ改訂小作權ヲ確保シ爭議ヲ一掃スルニ至レリ

大字名	申立期日	終局期日	申立者	地主數	小作人數	關係面積
赤野井共有地	昭和三年十二月六日	昭和三年十二月十五日	地主小作人合意	一	三二	畑田 五一、五一四
赤野井	同 五年五月一日	同 五年五月二十三日	地主 主	一六	九九	畑田 三六、一一二四
赤野井	同 五年九月十五日	同 五年九月二十三日	地主 主	三八	六一	畑田 一一、九二八
矢野井	同 六年三月二十三日	同 六年五月二日	地主小作人合意	一〇三	一四六	畑田 七四、一六〇二
矢野井	同 六年四月二十六日	同 六年五月十三日	地主小作人合意	一八	七七	畑田 二五、一五〇八
石田	同 八年三月十八日	同 八年三月二十七日	地主小作人合意	五四	九九	畑田 三五七、〇二二

四、自作農組合ノ現況

本村矢野井部落、十二里部落ニハ各自作農組合ノ設置アルモ、赤野井部落ニハ未ダ設置ノ運ニ至ラズ、今後此ノ方面ノ指導ニ依リ一層部落自治並資金償還ニ資シ得ルモノト認メラルル處ナリ

京 都 府

四一、久世郡寺田村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

大正十四年度	一〇、〇〇〇圓	同	四年度	一五、〇〇〇圓
同 十五年度	四、〇〇〇圓	同	同 五年度	一八、〇〇〇圓
昭和元年度	六、四〇〇圓	同	同 六年度	五、〇〇〇圓
同 二年度	一五、〇〇〇圓	計		八六、四〇〇圓
同 三年度	一三、〇〇〇圓			

ロ、創設維持別反別及人員

創設	田 一二七、一一五 ^歩	一二二人
維持	田 四、〇一四	三人

計	田 一三二、一二九	一二四人
畑	七二、五〇七	

二、事業實施ノ動機及經過

大正十二年末小作爭議勃發シ地主小作人間相反目シ、村自治機關ハ一時休止ノ状態ニ至リ、翌大正十三年五月稍、小康ヲ得タルヲ以テ、斯カル不祥事ノ根絶ヲ期センガ爲本事業ノ實施ヲ企圖シ、以來繼續實施シタル結果其ノ成績顯著ナルモノアリ、地主小作人間ノ關係モ頗ル圓滿ニシテ、農村不況ニ際シ舉村一致産業開發農事ノ改良ニ努メツツアリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

イ、小作人側ニハ元獎勵會ナル小作組合アリシガ、大正十二年度ニ日本農民組合ニ加盟シ組合ノ應援ヲ得テ田畑共小作料六割減ヲ要求シ地主側之ニ應ゼズ、相當紛糾ヲ來シタリシガ、同年度ニ限リ三割五歩減ヲ以テ解決シ、翌十三年度ハ一部旱害ノ爲田畑共二割減額ヲナシ、大正十四年度ニ於テハ一部蟲水害ニ因ル不作ヲ理由トシテ小作側ハ四割減ヲ要求シ地主ハ之ニ應ゼズ、小作官ノ斡旋ニ依リ田畑ヲ通シ三割七分五厘減ニテ解決セリ

右解決後地主側ハ連年斯カル事件ヲ繰返スハ非常ニ不利ナルヲ以テ、今後農村平和ノ爲ニ何等カノ方策ヲ講ゼザルベカラズトナシ、共同耕作ヲ計畫シ田三町八反歩ノ返還方ヲ小作人ニ要求セリ

小作側ハ周章狼狽地主側へ交渉ヲ試ミタルモ容ルル處トナラズ、村長、農會長、助役等之ガ調停ニ從事シタルモ之ニ應ゼズ、大正十五年十一月村長、農會長ハ主ナル地主同道、調停法ニ依ル調停方ヲ申出デ、同年十二月十五年度小作料ハ三割減額スルコト、大正十六年度以降ニ於テハ改定小作料ニ依リ納付スルコトトシ圓滿ニ解決シ、以來自作農創設維持事業ノ施設ト相俟テ小作問題ハ頗ル圓滿トナレリ

ロ、事業實施以前ニ於テハ村民ノ思想極度ニ惡化シ、事々ニ地主小作人間離反シテ舊來ノ温情ハ其ノ根跡ヲモ見ル能ハザリシガ、本事業實施以來漸次緩和シ一部凶作等ニ際會スルコトアルモ、洵ニ和氣藹々圓滿解決ヲ見ルニ至リ、元小作人タリシモノモ自作農ニ進ミ昭和七年度ニ經濟更生指定町村トナルヤ卒先之ガ計畫ニ參加シ、之ガ中堅トナリ一般ヲ率ヒテ着々其ノ成果ノ見ルベキモノアリ

本村ハ水田二七九町四反歩、畑一八五町歩、農業戸數四九〇戸ノ純農村ニシテ、作物分布ノ狀況ハ土質ニ從テ按配セラレ、西ハ木津川右岸ニ沿フ砂土或ハ砂質壤土ニシテ、茶、甘藷、蔬菜ヲ主トシ東部緩傾斜地ハ李、桃、梅、柿、葡萄等ノ果樹ヲ栽植シ、其ノ中間平擔地ハ全部米作地ニシテ此ノ間梨ノ築畦栽培點々トシテ散在ス、民家ノ大部ハ耕地ノ中央ニ集團シ共同施設日常生活ニハ最モ理想的の地ノ利ヲ得、京阪兩都市ノ中位ニアリ、交通至便生産物ノ販賣ニハ絶對的の優位ヲ占

メ、地味肥沃ニシテ凡ユル作物ノ栽培ニ適ス、就中木津川沿岸ニ栽培スル甘藷ハ寺田芋ト稱シ質ノ優良ナルヲ以テ京阪神市場ニ其ノ名聲高ク寺田李ノ如キハ全國的ニ周知ノ事實ナリ、然レドモ村民ハ此等優先的の諸條件ニ慣レテ後進地ノ發達、經濟的の變動ニ處スルノ途ヲ忘レ、徒ニ一時的の打算ニ走り投機的の經營ヲナスノ傾向アリテ經濟更生ノ必要切ナルモノアリタリ、仍テ自給肥料ノ唯一最大ノ給源タル畜牛ノ飼育、養雞ヲ加味シタル有畜農業トナシ、獎勵品種ヲ統一シ、園藝作物ノ病蟲害豫防驅除ニ努メ、經營ノ合理化ヲ圖リ産業組合、村農會、當業者協力一致シテ米、小麥、莢豆、甘藷、柿、葡萄、梅、桃、寺田李、梨等ハ何レモ共同販賣ヲナシ、其金額一一八、七四九圓、肥料其他産業用品ノ共同購入セルモノ一一三、六七圓、共同作業場ニ於テハ金岡式靱乾燥機一臺移動「モーター」ニ依ル靱摺機及調製器、精米器等ヲ据付ケ肥料配給設備トシテ粉末機、粉碎機ヲ設備シ之ヲ利用セシメ、貨物自動車ヲ購入シテ専ラ生産物ノ販賣運搬ニ充テ、本年度ヨリハ京都ニ於テ數箇所生果ノ賣店ヲ設ケ、當業者ヨリ直接消費者ニ販賣ヲナス等相當ノ成果ヲ修メツツアリハ、從來各種ノ會合ハ所定ノ時間ヨリ一時間以上遅ルルヲ普通トセラレ、徒ラニ貴重ナル時間ヲ空費シ、自他共ニ頗ル不利ナルヲ覺リ昭和七年度ヨリ時間勵行ヲ主唱シ出席ノ多少ニ拘ラズ、所定ノ時間ニハ開會ヲ宜シ協議事項ヲ進行セシメ、遅刻者ニ對シテハ終了後報告ニ留ムルコトトセリ尙近來泰西文明ノ輸入ニ伴ヒ敬神ノ念動モスレバ其ノ影ヲ斷タントスルニ際シ、神官僧侶ノ服裝

及動作著シク惰落頹廢セラルル傾アルヲ以テ之ヲ矯正シ、男女青年團等ヲ督勵シテ社寺ノ清掃ヲ行ヒ、村民ノ死亡ニ際シテハ葬式器具一切ノ貸與(使用料一回)禁酒ノ勵行、忌明ニ際シテハ一汁一菜ノコト等ヲ實行シ、近ク婚禮ニ要スル式服等モ組合ニテ備付ケルコトニ目下協議中ナリ、之何レモ農村ノ中堅タル自作農階級自覺ノ賜物ト言フヲ得ベシ

四、自作農組合ノ現況

昭和六年二月ノ設立ニシテ現在組合員一二四名、自作農資金貸付者ハ全員加入シ設立當初ハ規約ニ基キ八、十、十二月ノ三期ニ徴收積立ヲナシ之ヲ償還金ニ充テツツアリシガ、前年來米價下落シ農家經濟窮迫ノ結果償還困難トナリ、購入當初ハ米價モ相當維持セルヲ以テ高價ナル土地ヲ購入シ尙採算シ得タリシガ、最近米價下落シ土地價格低下ノ結果ハ頗ル苦痛ヲ感ズルニ至リ、昭和七年度ヨリ中間据置設置セラレタルヲ以テ漸ク危急ヲ免ルルヲ得タリ、貸付者中餘裕アルモノヲ除キ償還期前一回徴收積立ヲナシツツアリ、目下ノ處償還金ノ滯納セルモノナシ(組合規程ハ省略ス)

四二、南桑田郡飯岡町

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

大正十三年度	五、一〇〇圓	同	三年度	五、〇〇〇圓
同十四年度	五、一〇〇圓	同	四年度	五、〇〇〇圓
同十五年度	五、〇〇〇圓	同	五年度	八、〇〇〇圓
昭和元年度	一〇、〇〇〇圓	同	六年度	五、〇〇〇圓
同二年度	一五、〇〇〇圓	計		六三、二〇〇圓

七年度以降ニ於テ貸付ナキハ米價下落ニ伴ヒ土地價格低下シ、耕地賣却ノ希望者アレドモ一般小作人ノ將來ノ見透シ困難ノ爲メ買控ヘスルニ依リ賣買契約成立セザリシニ依ル、最近稍々米價モ安定ノ傾向アリ、次年度ニ於テハ申込ムニ至ルベシ(寺田村モ同ジ)

ロ、創設維持別反別及人員

創設 田 一七六反四〇三步 八三人

二、事業實施ノ動機及經過

農村ノ中堅タル自作農階級ハ極メテ僅少ニシテ、然モ之等自作農者ハ農産物價ノ低落ト農村負擔ノ激増ニ依リ遂次經營維持困難トナリ、其ノ數ヲ減ジ甚ダ憂フベキ状態ニアリ、加フルニ大正十二年以來小作爭議ハ頻發シ、地主小作人間ノ温情關係ハ地ヲ拂ヒ、感情ノ衝突思想ノ變化等默視スル能ハズ、恰モ本府ニ於テ自作農獎勵事業ヲ開始セラルルヤ、本町ハ卒先之ガ計畫ヲナシ之ガ緩和ニ努

メ其ノ成績見ルベキモノアリ
三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

イ、大正十五年十月小作人組合ハ病蟲ノ被害ヲ理由トシテ一割二分乃至五割減免(平均一割五分減)ヲ地主會ニ要求シ、翌昭和二年度ニ於テハ地主ノ檢見ヲ申出デ相互委員ヲ設ケ接涉數回ヲ重ネタルモ相方容易ニ讓ラズ、地主側ハ止ムナク十二月調停申立ヲナシ、小作人代表福井某外二名ハ大阪在住地主ヲ訪問シ、農業獎勵ノ爲小作組合ヘ勸摺機二臺ノ寄附ヲ申込ミ現金六百圓ヲ受取り横領脅迫罪ニヨリ懲役八箇月ノ刑ニ處セラルル等刑事事件ヲ惹起シ、數多ノ曲折ヲ經テ昭和三年三月宛米ヲ改正シテ漸ク圓滿解決スルニ至レリ、以來相次デ古世河原町等ニ爭議ノ發生ヲ見タレドモ地主ハ漸次自作農資金ニ依リ所有地ヲ小作人ヘ讓渡シ、小作人モ亦自作農家トナルニ隨ヒ一時深刻ナリシ小作爭議モ終熄スルニ至レリ
ロ、本町耕地ノ所有狀態不均衡ニシテ農事ニ精勵スル氣風乏シカリシモ、本事業實施以來漸次小作人ニシテ耕地ヲ購入スルモノ續出シ、其地位安定スルニ從ヒ一家協力農業ニ精進シテ米作ハ增收シ産米ハ改善セラルルニ至リ、促成獨活、薑、佛掌薯、莢豌豆、葱等ノ栽培ハ著シク改善セラルルニ至リ尙出荷組合ニ依ル販賣ノ統制ヲモ圖リツツアリ
五、町勢概要
正一〇〇圓
四三三圓
正一〇〇圓

本町ハ南桑田郡ノ東部ニ位シ山陰線龜岡驛ナリ有シ、南部高地ヲ距テテ篠村ニ接シ北へ保津川ニ沿ヒ戸數一七一三戸、人口七七三〇人、面積一二七二陌五一ニシテ田三四五町二畑一九町七、其他ノ土地三〇七町二、保安林三一二町九、物産トシテハ農産

物二五九、四五六圓、畜産物一六五、一九一圓、林産物四三、〇六三圓、礦産物一〇、五一二圓、水産物一八、三六三圓、工産物四二七、三八〇圓、計九二三、九六五圓ナリ

大阪府

四三三、南河内郡金岡村

本村ハ一諸地主兼ハ農村ニ對シテ農産獎勵ノ體ヲスルニ、勸業局長ヲ和徳ニシテ、南河内土産科大會

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和八年度

一六、一〇〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

創設 田	三〇、八二二	一人
維持 田	一、四〇三	一人
計 田	三二、二二四	一人

二、事業實施ノ動機及經過

本村ノ一部地主連ハ農村ニ於ケル勞資協調ノ動モスレバ破綻シ易キ時勢ニ鑑ミ、南河内土地株式會社ニ自己所有土地ヲ提供シ、土地所有權ヲ會社名義ニ變更シ、可及的ニ小作人ヨリ種々ナル直接交渉ヲ回避セムトセリ、然ルニ後述ノ如ク地主側ト小作證書ヲ會社ニ提出スル様小作人側ニ要求シタルニ小作人側ハ之ヲ拒絕シタルヲ以テ、會社ハ直ニ土地返還ノ訴訟ヲ提起シ、茲ニ爭議ノ發生ヲ見ルニ至レリ、斯クシテ益々紛糾スルノ兆候ヲ呈シタルヲ以テ、村當局有志モ大ニ憂慮シ種々斡旋調停ニ努メタルガ容易ニ解決セズ、斯ル裡ニ小作人ヨリ小作繼續ノ調停ヲ申立タルヲ以テ府ヨリ自作農創設資金ヲ借入レ事件圓滿ニ解決セリ

南河内郡金岡村小作契約繼續事件(昭和八年(小調)第一二號)概要左ノ如シ
 係争土地 田 一一反九〇六步
 係争人員 地主 南河内土地株式會社 小作人 九名

一、結 末 昭和八年十二月十四日成立

原 因

本繫争地ハ元隣村某地主ノ所有ナリシガ、事業ニ失敗ノ結果、破産スル處トナリ、他ノ土地ト共ニ本件地主タル土地會社ノ所有ニ歸着セリ

然ルニ地主連ノ組織スル土地會社ハ、元來可及的速ニ土地ヲ資金化スル必要ニ迫ラレ、土地返還ヲ簡單ニ實行シ得ル様式ヲ備ヘタル小作證書ノ提出ヲ求メタルガ、小作人側ガ斯ル不安ナル契約ヲ欲セザルノミナラズ、會社ノ要求スル小作料ガ從來ノ地主時代ニ比シテ高率ナルヲ以テ之ヲ拒絕セリ

茲ニ於テ會社側ハ直ニ土地返還ノ請求ヲ爲シタルヲ以テ、小作人ヨリ小作繼續ノ調停ヲ申立タリ

經過及結果

仍テ小作調停委員會ヲ開催スルコト九回ニ及ビ、種々調停ニ斡旋スル處アリタレドモ容易ニ解決セズ、遂ニ本件土地ヲ小作人ヲシテ購入セシムル外ニ方法ナキヲ認メタルガ、小作人等ノ資力到底之ヲ購フニ足ラザルヲ以テ、茲ニ府ノ自作農創設維持資金ノ融通ヲ受クルコトトナリ、地主、小作人兩者ノ主張俄然好轉シ、反當平均四百七十圓臺ヲ以テ賣却スルコトナレ

リ即十二月十四日ノ最終委員會ニ於テ圓滿解決ヲ遂ゲタルガ調停條項ヲ舉グレバ次ノ如シ

(イ) 相立方ハ各申立人ニ對シ別表記載ノ他所ニ同表賣買代金欄記載ノ各價格ニ依リ賣渡ス

コトヲ認承シ、各申立人ハ右代金ヲ昭和九年三月末日迄ニ相手方營業所ニ於テ支拂フコト

(ロ) 相手方ハ申立人等ニ於テ前項ノ約旨通り賣買代金ノ支拂ヲ爲シタル時ハ、昭和九年三

月末日迄ノ延滞小作料竝ニ損害金ノ支拂ハ全部之ヲ免除スルコト

(ハ) 相手方ハ第一項ノ期日ニ賣買代金ヲ受取ルト同時ニ別表記載ノ賣買土地ノ所有權ノ移

轉登記手續ヲ爲スコト

(ニ) 本件調停ニ關スル費用ハ各自辨ノコト

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

貸付後日尙淺ク實施後ノ狀況ニ付未ダ擧グルニ至ラズ

兵 庫 縣

四四、六粟郡染河内村 (部落ノミノ事例)

一、資金貸付概要

イ、貸付金額

創設 田 九〇、八〇六
畑 一、〇二〇
田 一〇、三〇九
畑 四二九
田 二〇六
畑 一〇二、一一五
田 一〇二、一一五
畑 一、五一九
田 二〇六
畑 二〇六

維持

田 四二九
畑 六人
田 六人
畑 六人

計

田 一〇二、一一五
畑 一、五一九
田 二〇六
畑 二〇六

宅

田 一〇二、一一五
畑 一、五一九
田 二〇六
畑 二〇六

二、事業實施ノ動機及經過

イ、本村ハ西播ノ中國分水嶺ニ接續スル農山村ニシテ、總耕地僅カニ一六三町五反歩、農家戸數三二四戸中自作農一一七、小作農六〇、自作兼小作農一四七戸ニシテ、耕地四割二分ハ小作地ナリ
農耕ノ傍ラ牧畜、林業、養蠶等ノ副業ニ從事シ生計ヲ營ミ居レリ

ロ、本村ハ小作調停法實施後間モナク一般思想惡化ノ影響ニ依リ、地主小作ノ抗爭激烈ヲ極メ遂ニ尖銳化ノ余リ刑事事件ヲ惹起シ、小作人ノ大部分ハ檢束セラレ本縣小作爭議史上最初ノ大事件ナリシナリ

當時村當局ニ在リテハ之ガ將來ヲ憂慮シ、再ビカカル結果ヲ招カザル様未然ニ防止スル方策トシテ、此際之等關係土地ヲ小作人等ニ所有セシメ、以テ禍根ヲ除去スベク計畫ヲ樹テ、自作農ノ漸増ヲ計ルト共ニ思想ノ緩和及生計ノ安固ヲ計ラシムル様努メタル結果、人心一變シテ平穩ニ歸ヘリ村民一致現在ニテハ平和ナル村ノ建設ニ邁進シツシアリ

ハ、特ニ本村下野田部落ハ右爭議ノ最モ激争ヲ極メタル處ニシテ、農家戸數四十一戸中自作農三、自作兼小作農二十九、小作農九、又一面所屬耕地二四町四反八畝步中自作地五町九反五畝步、小作地一八町五反三畝步ニシテ、土地分配不均衡甚シク右小作地ノ大部分ハ不在大地主ノ所有地ナリシナリ

本部落所屬耕地所有大地主志水某ノ家財整理地ヲ昭和二年六月十二日ニ田六町五反九畝一四步ヲ一括本部落民全體ニテ購入スルコトニ決シ、曩ニ(昭和二年二月二十五日)設置セラレタル下野田土地利用組合ニ所有管理セシムルコトトシ、之ガ資金ヲ他ヨリ融通ヲ受クベク農工銀行ニ交渉シ該地全部ヲ擔保トシテ金貳萬圓ヲ借入ルルコトトシ(年利八分五厘十五ヶ年賦償還四十名ノ連帶

債務)不足額ハ部落有財産三千圓(無利子)神社基本財産三百十圓(年利七厘)及青年團財産二百圓(無利子)其他ハ各人自己資金或ハ所有地ヲ提供スル(田四町步ヲ農工銀行へ増擔保トシテ提供)等ノ方法ニ依リ購入總金額貳萬八千參百八十圓ニテ組合ノ所有地トナシ、右ノ外其後ニ於テ田四反八畝二十七步、畑一畝七步、原野一反五畝二十三步、山林一町八反七畝二十七步ヲ千九百二十圓六十四錢ニテ購入シ以テ之ガ償還財源トシテ該地ヨリノ入附米五十九石一斗五升ヲ充ツルコトトセリ

然ルニ世界的不況ニ際會シ今迄右收入米ニヨリ全部ノ組合經費ヲ支辨シ、尙且剰余ヲ生ジタリシガ、農産物價ノ著シキ慘落ニ會ヒシ爲裏作物タル麥ノ内ヨリ一、二俵ヲ各人負擔トシテスラ尙農工銀行ノ償還金ニ不足スルノ實狀トナリ、困窮年ト共ニ加ハリ又昔日以上ノ貧窮ニ苦闘ヲ續ケザル可カラザルノ緊迫セル事情ニ至リタルヲ以テ、組合員總會ニ計リ右農工銀行ノ償還契約ヲ長期契約ニ更改方ヲ交渉シ、昭和七年七月初旬ニ於テ二十ヶ年賦ニ契約更新シ僅カナル負擔ノ輕減ニ依リ辛ジテ組合ヲ死守シ來リタルモ、一時的瀾縫策ハ寸前ヲ防止スルニ過ギザル事情ナルヲ以テ更ニ組合ノ存亡ニ關スル總會ヲ開キ、衆議一致ニ依リ一日モ早ク之ガ解決ヲ爲スコトトシ、委員ヲ擧ゲ自作農創設維持資金ヲ以テ借替ヘテ爲スコトニ決シ、同時ニ下野田土地利用組合ヲ解散シ組合員四十名ハ夫々自己ノ所要耕地ヲ所有スルコトトシテ更生スルニ至レリ目下銳意初期ノ目的

ニ邁進シシツアリ
之ガ借替ヘ狀況左ノ如シ

年 度	創設 反別	創設 價格	貸付 資金	人員 備	考
昭和七年度	田 六六、二一五 ^歩	二一、七七二 ^円	一九、二一〇 ^円	三二	

註 借受人中ニハ無資格者ヲ除キタルモノナリ

ニ、右下野田土地利用組合解散ニ伴ヒ之ニ替ル可キ下野田自作農組合ヲ組織シ著々実績ヲ擧ゲツツアリ

四五、朝來郡中川村

一、資金貸付概要

イ、貸付金額 額 金額 貸付金 八千五百八十圓 貸付金 九一、三〇〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

田 一六五、三二七^歩

畑 九、四一一

住宅 八一五

維持 田 九九、一二二

畑 四一七

住宅 八一五

計 畑 九、八二八

住宅 八一五

二、事業實施ノ動機及經過

本村ハ中國山脈ノ分水嶺ニ位スル農山村ニシテ主トシテ農耕、牧畜並ニ養蠶業ヲ以テ生計ヲ樹ツ

三 本事業ヲ實施セムトスル當時ハ耕地總面積四二〇町八反步中其ノ五割六分ノ小作地在リ、又一面農家總戸數六五七戸中自作農一割九分、自作兼小作農五割三分、小作農二割八分ニ當リ、土地分配ノ不均衡甚シク爲メニ堅實ナル農村タルヲ期ス可クモアラザル實情ナリキ

右自作兼小作農ノ大多數ハ耕地一反步未滿ノ所有者ニシテ何等純小作農ト變リ無ク耕地ノ大部分ハ村外ノ大地主ノ所有セル處ナリ、從ツテ無産大衆タル之等零細農等ハ一部地主ノ壓制ニ甘ンジ辛

苦ニ鞭打チ辛ジテ生計ヲ持續シ來リタル處、時代ノ潮流ハ之ヲ許サズ地主小作人ノ關係ハ次第ニ不穩トナリ小作爭議ヲ惹起シ、農民組合ノ指導進ムニ連レテ爭議ハ深刻化シ村ノ平和ヲ維持スルコト困難ナル事態ニ立至レリ、當時村當局ハ之ガ難局打開ニ苦心シ、民心ノ動靜ヲ穩和ナラシメムトシテ自作農創設施設ヲ實行スルニ至レリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

本事業ノ實施ニ依リ小作地ノ割合總耕地ノ五割程度トナリ、又農家ニ付テ見ルモ自作兼小作農ノ内容良好化シ、所有地三、四反程度迄向上シ純小作農ハ地僅少トナリ、而モ創設自作農家ハ地位安定セル爲土地愛護ノ念一段ト騰マリ、農事ノ改良、地力ノ維持ニ力ヲ致シ、村民間ノ精神的融和ニ資スル處尠カラズシテ、昔日ノ不穩ナル形勢影ヲ潛メ其ノ實績見ルベキモノアリ

就中本村物部々落ニアリテハ所屬耕地田約五十町、畑約十八町歩ノ内約七割餘ハ村外地主ノ所有耕地ニシテ、農家戸數百戸中自作農二十戸、小作農五十戸、自作兼小作農三十戸ニシテ零細ナル小作者大多數ヲ占メ、土地分配ノ狀況甚シク均衡ヲ失シ、極メテ不健全ナル部落ナリシ處ヨリ、當時部落碎部ニ據リテ之ガ打開策ヲ企畫シ、第一着手トシテ部落ノ進展スベキ障礙トナレル他町村民有地ヲ本部落ニ買戻スヲ緊急ナル事業ナリトナシ、部落民全部ノ贊同ヲ得テ大正十四年十二月十九日ニ物部自作農創成維持組合ナルモノヲ設立シ規約ヲ作成シ、之ニ基キ目的達成ニ努力スルコトトナレ

リ、當時組合員七十名ヲ算シ大正十五年二月四日ヨリ具體的ニ事業ヲ實施スルニ至レリ、乃チ之ガ事業資金ノ所要額ノ大部分ハ外部ヨリ負債ヲ仰グコトトシ（農工銀行及地方銀行ヨリ物件時價ノ六掛ヲ借受）一部差金ノ不足額ハ組合員ヨリ自己資金ヲ支出セシムルコトニセルモ貯ヘノ無キモノ相當アリ、之ガ爲其ノ者等ノ家屋一式及不動産ノ全部ヲ提供セシメタルニ、事業當初タル大正十五年ニ創設セル一六町五反歩ノ購入價格ニ滿タザリシタメ更ニ農工銀行ニ交渉シ、組合幹部十名ノ連帶保證ニテ信用借入ヲ爲ス等アラユル方法ヲ講シタリ

年 度	人 員	創 設 反 別	個 人 出 資	自 作 農 創 設 維 持 資 金	農 工 銀 行
大正十五年度	七五	一六五、〇〇〇 ^歩	一一、〇〇〇 ^圓	五、九〇〇 ^圓	四八、六〇〇 ^圓 （年八分五厘） 信用借五、〇〇〇 ^圓 （年一割）

而シテ之ガ償還財源ハ該施設土地ヨリノ收得米及春、秋蠶兩期ノ收繭ヲ共同販賣シタル内ヨリ豫メ積立テ置キ、資金償還ノ都度之ニ充ツルコトトセルニ、數年來ノ農村不況ノ爲メ深刻ナル打撃ヲ受ケタルモ組合員一同不撓ノ精神ヲ以テ一致團結シ、生産物ノ增收竝ニ販賣ノ統制、一面消費ノ節約ヲ勵行シ、勤儉力行一日モ早ク之ガ難局打開ニ努ムルハ勿論、初期ノ目的達成ニ邁進シ、常ニ組合員相互ニ戒シメ監視ヲ怠ラス自重シ、組合ノ本旨ニ悖ルコトナク精勵シ來レリ、然レドモ世界の不況ノ影響ハ如何トモ爲シ難ク窮乏ノ一路ヲ辿ルニ過ギズ、爲ニ從來ヨリノ無理セル因ハ負債過重ト

田 七六、一二三
創設 烟 一五、一八
六六人

二、事業實施ノ動機及經過

昭和三年本村内ニ農民組合ノ組織ヲ見テ以來組合員ハ次第ニ増加シ同年ニ於テ既ニ約四十名ニ達シ、同年度米ニ於ケル小作料ノ收納ヲ紛擾ノ發端トシテ極力地主ニ對抗シ、小作米ヲ納入スルモノナキニ至レリ、更ニ同四年度ニ至リ曩ニ組織セル農民組合員以外ノ小作人ヲ以テ小作組合ヲ組織シ、村内小作人ハ悉ク此等小作組合ニ加入スルニ至レリ、而シテ四年度村内全小作人ハ氣脈相通ジテ小作料ヲ納入スル者ナク、村内土地所有者ハ非常ニ窮境ニ陥ルニ至レリ、依ツテ村當局ハ東奔西走シ之ガ解決ニ付腐心シ、慎重ニ調査研究ヲ重ネタル結果土地所有者中主ナル地主ノ土地賣却ヲ決斷セシメ、其ノ小作人ニ買收セシムルニ如カズトシテ地主ニ其ノ意向ヲ糺シタル處地主ニ於テモ異議ナク、土地賣却ニ同意ヲ爲シタルヲ以テ更ニ小作人ニ之ガ買收ヲ獎メタルニ、小作人ハ全部同意ヲ表スルニ至リ、茲ニ於テ自作農創設維持事業ヲ施行スルコトニ決シ、昭和六年度、昭和七年度兩年度ニ於テ二萬八百圓ヲ借受ケ、小作人ニ貸付ケ主要ナル地主ヨリ土地ヲ購入セシメタリ、目下借受人ハ勤勉ニ農業ヲ經營シツツアリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

イ、地主對小作人ノ意志ハ前記ノ如ク全然疏通ヲ缺キ、小作人ハ氣脈相通ジテ小作米約六割ノ減額ヲ申出デ納付スルモノナク、昭和三年ヨリ昭和五年迄繋争中ナリシガ、昭和六、七兩年度ニ亘リ田畑反別九町一反三畝十一歩、人員六十六人ノ自作農創設ヲ實施シ主トシテ不在大地主ノ田畑ヲ購入セシメタルヲ以テ小作組合ハ其ノ對抗スベキモノナキニ至リ、從テ兩組合共ニ解散スルノ已ムナキニ至リ爾後小作人ハ舊來ノ氣風一變シ、土地愛護ノ念増加シ引テハ生産ノ增收ヲ見ルニ至レリ

ロ、本事業實施ハ農事改良生産増加ニ資スル處不斯即チ本村中ニ螟蟲年々發生スル處アリ、此ノ地ハ小作人ハ豫防驅除等ヲ行ハズ被害ヲ大ナラシメ、夫レニ依リ地主ニ對シ過大ナル小作料ノ減免ヲ要請シツツアリシ實例アリタルガ、小作ヲ廢止シ自作農地トナルニ及ンデ被害ハ全然自己負擔トナルヲ以テ此弊風ヲ匡正シ、農事改良ニ精勵シ生産増加ニ勇往邁進シツツアリ

四七、西牟婁郡長野村

一、資金貸付概要	一六、三〇〇圓	三八、三〇〇圓
イ、年度別貸付金額	六、五〇〇圓	六、〇〇〇圓

昭和五年度	六、五〇〇圓	同	八年度	九、〇〇〇圓
同 六年度	一六、三〇〇圓	計		三八、三〇〇圓
同 七年度	六、五〇〇圓			

ロ、創設維持別反別及人員

田	六七、五〇三	五四人
畑	二六、三一三	
宅	二、一二九	
維持 田	二五、二二八	一〇人
田	九二、八〇一	
計 畑	二六、三一三	六四人
宅	一二九	

二、事業實施ノ動機及經過

農産物價低落ニ伴ヒ本村農家ノ經濟モ亦漸次窮迫ヲ遂ゲ、生活至難ニ陥リ思想ハ惡化シ青年子女ハ農業ヲ嫌忌シテ離村ノ傾向ヲ示シ、此ノ儘ニ放任セバ本村ハ著シキ苦境ニ立ツニ至ラントシ之ガ對策ニ苦慮シツツアリタリ、此處ニ於テ昭和五年度ヨリ自作農創設維持事業ヲ開始シ昭和八年度ニ至

ル四ケ年間ニ三萬八千三百圓ノ資金ヲ貸付シテ自作農地ヲ創設シ、亦自作農者ニシテ土地購入ノ爲生ジタル其ノ負債ニ苦慮セル向ニ對シ、是ガ維持方策ヲ樹テ生活ノ根源ヲ保持セシメ以テ經濟更生ノ基礎ヲ固ムルニ至レリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

本事業實施以來四ケ年ニ十一町九反餘歩、六四人ヲ創設維持(一人當平均一反八畝歩)セリ、創設シタル田畑ハ主トシテ不在大地主ノ所有セシモノナルガ此等創設農家ノ努力ニ依リ農業經營ノ改善、農村ノ平和振興ニ寄與シタル處尠カラズ農村問題解決方策ノ最適事業タルヲ強ク認識セシメ、昭和八年一月經濟更生計畫樹立ト相俟ツテ本村ハ健實ナル發達ニ向ヒツツアリ

本村農家窮乏ノ禍因ヲ檢討スルニ、農業精神ノ缺如ト收支均衡ノ無頓着等ニ起因スルヲ以テ茲ニ計畫ヲ樹立シ、農家ニ對シテ自省、奮起、研鑽、躬行ニ努メシメ、又村ニアリテハ和衷、協力、自治ニ一體大ニ組織ヲ改善シ、地主トノ間ニハ紛紜ヲ醸スガ如キ事ヲ防止シ、耕作者ガ眞ニ渾身ノ努力ヲ以テ土地利用厚生セシムベク企圖シ、約三十町歩ノ小作地ヲ一ケ年ニ三町歩宛十ケ年計畫ヲ以テ自作農地ト爲サムガ爲メ創設計畫ヲ樹立シ更ニ自作農地ニ對シテハ其ノ維持經營ノ完璧ヲ期セシメ殖産改良ヲ圖リツツアリ

四、自作農組合ノ現況

四 昭和七年七月二十八日長野村自作農組合ヲ設立シ、組合員トシテハ長野村民ニシテ自作農資金ヲ借受ケタル者及關係吏員、自作農資金貸付審査會員ヲ以テシ、其ノ目的ハ農業技術ノ改善、經營ノ改良、健實ナル農村ノ發達ヲ圖リ自作農資金償還ノ確保並ニ公租ノ爲メニスル積立貯金ヲ爲ス等償還ノ完璧ヲ期シツツアリ

五、村勢概要

本村ハ東西三軒餘南北八軒ノ面積ヲ有シ、戸數四〇五戸、人員一、七七一人、耕地面積田八三町七反歩、畑九一町九反歩、農業專業戸數一八四戸、兼業戸數一二二戸ニシテ、自作反別田六四町三反、畑七八町二反歩、小作反別田一九町四反歩、畑二三町七反歩ニシテ、近時農産收入尠ク經濟的並自治的ニ頗ル行詰ナ

來シタリトハ云ヘ、村民ハ眞ニ非常時局ニ覺醒シ之方對策ニ眞劍ナル研究ト努力トヲ傾注シ、自作農創設維持施設、實行組合ノ各事業ヲ擴充シ完全ナル發達ヲ期シ以テ村經濟更生ニ當リツツアリ

鳥取十一縣

四八、西伯郡大高村

一、資金貸付概要

不年度別貸付金額

昭和四年度

六三〇圓

同八年度

一三、〇二〇圓

昭和七年度

四、二二〇圓

計

一七、八七〇圓

創設維持別反別及人員

創設

田

七〇、三二〇歩

三人

維持

田

五、四二七

一人

計

田

七五、八〇七

三人

二、事業實施ノ動機及經過

西伯郡箕蚊屋部ハ山陰地方ニ於ケル農民組合運動ノ發祥地ニシテ、最モ古キ歴史ヲ有シ特ニ本村ニ於テモ大字下郷ヲ中心トシテ、大正十二年十月五日日本農民組合支部ノ結成ヲ見活發ナル活動ヲ開始シ、之レガ影響ヲ受ケ引キ續キ村字、尾高二支部、岡成、泉、各一支部ノ組織ヲ見、農民運動ノ嵐ハ村内ヲ席卷シ小作人ハ殆ンド之レガ傘下ニ馳セ參ジ爭議ハ激烈ヲ極メ誠ニ憂フ可キ事態ヲ惹起セリ然ル處村ニ於テモ之レガ對策ニ腐心シ、日夜地主小作間ノ協調融和ニ努力スルト雖、最初ハ單ナル

小作料減免ノ活動ニ終始セル組合ノ運動モ、地主組合山陰土地會社等ノ對抗團體ノ組織ヲ見ルニ及ビテ遂ニ深刻ナル鬭争ニ發展シ、事態益々惡化ノ傾向ニ直面セル折政府ニ於テハ自作農創設維持補助規則ヲ公布セララルルニ及ビ、本村ニ於テモ之レガ恩惠ヲ普ク小作人乃至没落セムトスル自作農ニ及ボシ之レガ根本的救濟鑿策ヲ講ジ以テ争議ヲ未然ニ防止スルト共ニ、小作農民ニ活路ヲ與ヘ更生セシムルノ必要ヲ痛感シ、昭和四年遂ニ村會ノ決議ヲ經テ之レガ實施ヲ計畫爾來昭和七年、八年兩年度ニ於テモ本事業ヲ實施セリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

昭和四年始メテ本村ニ本施設實施セラレタリト雖、當時ハ當局ノ熱心ナル勸奨ニ不拘創設ヲ爲シタルモノ僅カニ一名ニ過ギザリキ、昭和三年以後農民組合ハ表面鎮靜セルガ如キ觀ヲ呈セルモ實質ハ然ラズシテ依然トシテ争議ハ繼續セラレタリ、即チ不況ニ因ル農產物價ノ下落ハ、農村未曾有ノ恐慌ヲ來シ、凶作ニ基ク小作料減額要求ニ拍車ヲ加ヘ、生活權防衛ノ叫ビトナリ二年以上ニ亘リテ小作料ヲ納付セズシテ争議ヲ繼續セル爲、益々内容深刻化シ果ハ直接行動ニ出ヅルアリ官憲ノ發動トナリタルモ尙地主小作双方相對峙シテ譲ラズ、昭和七年ニ至リ地主ハ立毛其ノ他有體動産ノ差押竝ニ立禁ヲ斷行セル爲大争議トナリ、亂闘アハヤ流血ノ慘事ヲ見ントセシモ漸ク小作調停法ニ依リ調停成立スルニ至レリ

六三〇圖

圖

八平調

THE OHTO

右調停ノ結果ハ平均一割乃至二割ノ減額トシテ未済小作料ノ長期分納ヲ認メララルルニ過ギズ、争議ノ犠牲ニ對比シテ餘リニ僅少ナル代償ナルノミナラズ、亦一面農村不況ノ深刻化ハ茲ニ組合幹部ノ指導方針ニ變化ヲ來シ、從來ノ鬭争中心主義ヲ修正シ生産的方面ノ研究竝ニ自作農創設維持法ノ活用ニ依ル土地問題ノ合法的解決ヘノ一大轉向ヲ見ルニ至レリ、而シテ昭和八年二月十七日全國農民組合下郷支部ノ解散ヲ最後トシテ村内農民組合ノ組織ハ全ク解散シ新シク農事協同組合ヲ結成シ、村農會ノ生産竝ニ販賣方面及村産業組合ノ金融其他ニ就テ能ク指導助成或ヘ村當局ノ誘導ト相俟ツテ漸ク其效ヲアゲ昭和七年ニ於テハ一町八反餘、進ミテ昭和八年ハ五町二反餘ノ創設ヲ爲スニ至リ、小作人漸次自作農維持施設ノ眞精神ヲ認識シ、之レガ積極的活用ニ依リ十有餘年ノ鬭争ハ遂ニ其跡ヲ斷チ村平和ノ基礎工作將ニ確立強化セントス

四、自作農組合ノ現況

理解アル縣當局ノ鞭撻指導ハ今漸ク其ノ成果ヲ見ムトシ、資金ニ依ル自作農創設維持ノ現況ハ昭和九年十月現在ニ於テ反別七町八反七畝十四歩、人員三十三名ニ達ス、借入者ハ最初農事協同組合ノ獨立部門トシテ自作農創設維持部ニ加盟之レガ統制ヲ受ケ、個人ヘノ貸付ハ之レヲ認メザル方針ニ進ミ協同力ニ依ル償還ノ確保ヲ期スル一面借入者ノ實力等ハ組合ヲシテヨク審査セシメ、無謀ナル土地所有慾ヲ抑制シ中途ニ於テ土地放棄等ノコトナキヲ期ス

昭和八年九月縣令ニ依ル農事實行組合ノ制定ヲ見ルヤ、從來ノ農事協同組合ヲ解散セシメ、之レガ改組ヲ斷行シ資金借入者ハ部落農事實行組合員タルコトニ改正シ、資金ハ登記終了セル組合ヲ對照トシテ貸付ヲナシ、益々事業ノ健實ト統制ノ確定ニ努メ遺憾ナキヲ期シツツアリ

村内農事實行組合ノ登記ヲ終了セルモノ四組合、準備中ノモノ二組合ノ實情ニアリ

自作農地ヲ創設維持シタル農家ニシテ經營ノ改善、土地改良等ニ精勵シ、特ニ顯著ナル業績ヲ舉ゲツツアルモノニ就キテハ多クアルト雖團體單位ニシテ最モ統制アル活動ヲ續ケツツアル下郷實行組合ノ概況ヲ記スルニ組織的ナル勤勞主義ト、土地利用ノ合理化トハ相俟テ其ノ成果ヲ舉ゲ、大高村一戸當平均總收入九百六十三圓ナルニ比シ、本組合員一戸當平均年收入一千二百二十五圓ニ及ビ優ニ百六十圓ノ增收入ヲ見ルニ至レリ、然シテ經營改善ノ具體的方策トシテ生産物ノ完全ナル共同販賣、購買品ノ共同購入ヲ實行シ昭和八年度ニ於テ左ノ成績ヲ舉ゲタリ

共同販賣金額(米、麥、蠶、大根等) 一〇、一五六、五〇

共同購入金額(肥料、養蠶具類其ノ他) 四、六六二、五九

未曾有ノ農村恐慌裡ニ直面シ各地ニ於テ諸稅諸公課滯納ノ聲著シキ秋、組合員ニ於テハ之レニ該當スベキ事實更ニナシ以テ經營ノ改善、土地ノ利用改善等ニ精勵シ相當ナル效果ヲ舉ゲツツアルヲ知ルベシ

土地利用改善ノ一例

一、水田利用狀況

表

面積	三〇、六五
反當收量	五、六八
總收量	二、一四五
同金額	一六〇、八七五
一戸當平均耕作反別	九
同收入金額	五四〇

口、水田裏作表 (昭和八年度)

作物名	作付反別	收穫高	反當收量	單價	見積金額	備考
大麥	二、八〇	一一二	四	四〇〇	四四八、〇〇	畦間ニ苜蓿ヲ栽培利用ス
小麥	七、二〇	二七〇	三、六	五〇〇	一、三五〇、〇〇	
ビール麥	一、九〇	七二	四	五〇〇	三六〇、〇〇	
菜種	一、七〇	三五	二	六、五〇	二二七、五〇	

大根採種	八〇	五・六	石	六・〇〇	三三六・〇〇	飼料用
紫雲英	七、〇〇	五六、〇〇〇	石	反當七・〇〇	四九〇・〇〇	綠肥用
苜蓿	七、〇〇	二四、五〇〇	〃	〃	一四二〇・〇〇	同
ザイトウイケン	二、〇〇	六〇〇	〃	〃	四六〇・〇〇	苗代地
休閑地	一、二五					
合計	三〇、六五				三、七一・五〇	

二四〇

裏作反當平均收入金高

同一戸當 同

二、畑利用狀況

畑總面積

桑園

蔬菜其他

桑園利用狀況

桑園反別

一反當產繭額

一二・六四

一二三・七六

一二、一五

五、六〇

六、五五

五、六〇

二五

口、蔬菜園三毛作利用狀況 (昭和八年度)

總生産額
總金額
一戸平均耕作反別
同 收入金額

一、四〇〇
七、〇〇〇
一、六〇〇
二〇六

作物名	作付反別	收穫高	反當收量	單	價	總見積金額	備	考
干瓢	五八・五反	三、八〇二・五	六五	一七	六、四六四・二五	春夏作		
西瓜	四・〇	三、二〇〇・〇	八〇〇	一四	四四八・〇〇			
其他	六・〇	一一二、〇〇〇	二、〇〇〇	三五	四二〇・〇〇			
大根	五六・〇	四、〇〇〇	八〇〇	一〇	三、九二〇・〇〇	干瓢跡作		
葱	五・〇	四、〇〇〇	四〇〇	一〇	四〇〇・〇〇	西瓜跡作		
大麥	四〇・〇	一六〇	四	五・〇〇	六四〇・〇〇	大根跡作		
三毛作	一六・〇	六四	四	五・〇〇	三二〇・〇〇	大根跡作		
合計						一二、六一二・二五		

蔬菜園總反別

一反當收入金額

六、五五
一九二・五六

本件土地ハ那賀郡杵東村ノ大地主栗栖氏ノ所有地ナリシガ、近年農産物ノ暴落等ニ基因シ遂ニ地主倒産ノ結果、昨年五月頃ヨリ家事ヲ整理スルニ當リ、先ヅ隣村井野村地内ノ所有地全部ヲ他ニ轉賣セムトシタル處、該土地ノ小作料ハ二百年來殆ンド増減ナクシテ、非常ニ低安ナル小作料ノ爲將來地主變更ノ場合ニハ必ズヤ小作料ヲ値上ダセラルルコト明ナリトシテ、現小作人等ハ轉賣セラルルコトヲ日夜危惧シ再三會合ノ上之ガ善處方法ニ關シ協議シタルモ、相當大事業ニシテ最適法ト認めラルル土地購入ニ就テハ資金調達ノ途ナク甚ダ困憊シ居リタリ、又一方村當局トシテモ此ノ際引續キ該土地ノ村外ニ出ヅル不利ヲ熟知シ其ノ全部ヲ小作者ニ於テ買取ル場合ハ、井野村大字今明部落九十數戸ハ完全ナル自作農家トナリ得ルニツキ、此ノ期ニ於テ將來本部落ヲ中心トシテ沈滞シツツアル井野村ノ更生ヲ圖ルノ緊要ナルヲ痛感シ、此處ニ村長ヲ初メ其ノ他有力者間ニ於テ土地購入方ノ斡旋ヲ爲スコトトナリタリ

然ルニ該土地ノ一部債權者ニ於テハ急遽處分セムトスル者アリ、又稅務署ニ於テハ既ニ滯納額ニ對スル相應ノ土地處分ヲナシタル等容易ナラザル實情ニ立至リタルヲ以テ、村有力者五名現小作人二名從來ノ作米取立管理人一名及村長計九名ヲ以テ、栗栖土地購入委員會ナルモノヲ組織シ、村長之ガ委員長トシテ地主竝ニ債權者ト交渉協議ノ結果左ノ如ク協議決定セリ

イ、井野村ニ於ケル栗栖所有地全部即チ田畑計四四町一步、宅地三九二四坪、山林四五町餘歩ヲ六

萬五千圓ニテ一先ヅ前記九名ノ委員名ヲ以テ購入スルコト

ロ、右土地ハ將來現作人ニ賣却スルコト、而シテ現時ヨリノ作米ハ現作人ノ所得トスルコト

ハ、購入額六萬五千圓ハ三ヶ年間ニ辨濟ノコト

但シ差當リ必要ナル一萬六千圓ヲ支拂フコト

右ノ差當リ支拂フベキ一萬六千圓ノ調達ニ付テハ、前記有力者ノ私有財産ヲ全部擔保ニ供シ金策ヲ

ナス等全ク部落愛、村更生ノ爲ノ義舉ニシテ大ニ感銘スベキモノアリタリ

其ノ折地主ニ於テハ永年ノ小作人ニ報ユルベク、郷社ノ森、作米取立管理人ノ住宅、五百俵入ノ倉庫、其ノ他諸費用ニ充ツルベク山林三〇町歩ヲ無償ニテ部落ニ寄附セリ

然シテ一方現作人ニ對シテハ前記委員ニ於テ購入セル其ノ儘ノ價格ヲ以テ賣渡スコト及現在委員(委員中現作人代表二名除外)ハ一坪タリトモ該土地ハ購入セザルコトヲ聲明シタルヲ以テ、小作人

一同ハ大イニ満足シ、此處ニ於テ初メテ縣ニ自作農資金ノ借入申請ヲ爲セリ

右申請ニ基キ調査セシ處前述ノ通相當大施設ナルガ故ニ、農業事情、小作事情ハ勿論、其ノ他購入價額ニ對スル債權者ト委員ノ關係等廣範圍ニ亘ル實情調査考究ノ結果、本資金ヲ貸付シ以テ之ガ解決ヲ圖ルコトガ最モ緊要ナルコトヲ認め、縣ニ於テモ村ノ更生計畫ト相俟ツテ事業遂行ニ努ムトスル所アリ、依テ自己資金支出可能ノ者、本資金貸付條件ヲ具備セザルモノ及抵當權等ノ設定アリ

テ手續面倒ナルモノ等ヲ除外シ表記ノ通二回ノ貸付ヲ了セリ其間ノ貸付額ハ三萬六千圓ニ達スルモ尙殘額五千圓餘ヲ貸付スレバ此ノ事業ハ全ク完了スルコトナル現況ニ在リ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

實施後日淺ク特記スベキ事項ナシト雖、資金貸付ニ附帶シテ縣當局ハ部落民ノ抵當債務ノ抹消、賴母子講ノ整理等ニ徹底的ニ參與指導シ今ヤ全ク完全ナル自作地トナリタルヲ以テ、借受者一同感激シ更生ノ意氣見ルベキモノアリ

四、自作農組合ノ現況

自作農組合設立ノ上從來ノ小作料相當米ヲ全部積立ツルコトニ決定シ居リ、目下組合規程ニツキ縣ト協力考究中ナリ

五〇、簸川郡灘分村

一、資金貸付概要

昭五年度貸付額八三萬六千圓ニ達スルモ尙殘額五千圓餘ヲ貸付スレバ此ノ事業ハ全ク完了スルコトナル現況ニ在リ

田 一四一人 一〇〇〇圓

二、事業實施ノ動機及經過

本村ハ斐伊川ノ河口ニ位シ上流ニ於テ砂鐵採取ノ爲ニ盛ニ土砂ヲ流出セシヲ以テ、下流ハ右土砂推積スル爲川床上リ耕地ヨリ高クナリ、河水ハ出水毎ニ氾濫シ災害ヲ蒙ルコト屢々ナルヲ以テ、内務省ニ於テ大正十一年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十五ケ年間ニ完成ノ豫定ヲ以テ改修工事ノ計畫ガ樹立セラレタリ、依テ之レガ關係町村ハ二十四ケ町村ニ亘リ、内最モ重大ナル關係ヲ有スルハ灘分村ニシテ本改修工事ノ爲ニ移轉ヲ要スル家屋ハ實ニ百四十戸ニ及ビ、彼等ハ他ノ犠牲トナリテ永住ノ地ヨリ移轉スルヲ痛ク忌ミ特ニ自作、小作農ニ於テハ差當リ生活ノ脅威ヲ感ジ大イニ之ガ反對ニ努メタリ、一方同村ニ於ケル地主ハ當時小作問題惹起シツツアリタルヲ以テ、相當代價ニテ買收セラルルハ寧ロ希ム所ニシテ、又關係他町村ハ全部該工事促進運動ヲ開始スル等非常ナル事態ニ立至リ、之ガ對策ニツキ縣社會課ヲ中心トシテ種々對策協議ノ結果、灘分村ノ移轉者ニ對シテハ義捐金ヲ募集スルコト又小作農家ニ對シテハ適當ナル替地ヲ斡旋スルコト及適當ナル購入土地アル者ニ對シテハ本資金ノ貸付ヲナスコト等ヲ決定シ之ガ解決ヲ計レリ

付ヲ爲シタリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果竝自作農組合ノ現況

右借受人ハ餘儀ナク轉住セシト雖幸ニ本資金ヲ借入レ却而自作農家トシテ更生シ、此處ニ新生一面大イニ發奮努力スル所アリテ、既報ノ通早速自作農組合ヲ設立シ以テ農事ノ改良、生産増加ニ意ヲ注ギ凶作其ノ他非常時ニ於ケル償還確保ヲ目的トシ、恒産ノ造成ニ資セムガタメ償還年額ノ三割ニ相當スル増額積立モナシ相當效績ヲ收メツツアリ

岡山縣

五一、兒島郡興除村

一、資金貸付概要

一、年度別貸付金額	昭和元年度	七、〇〇〇圓	同	一四四年度	一〇、〇〇〇圓
	大正十三年度	七、〇〇〇圓	同	同	同
	同	十四年度	八、〇〇〇圓	同	同
	同	十五年	同	同	同

同 五年度 五〇、〇〇〇圓 同 八年度 二二、〇〇〇圓

同 六年度 二〇、〇〇〇圓 同 九年度 一五八、〇〇〇圓

同 七年度 八、〇〇〇圓 同 十年度 八、〇〇〇圓

創設 田 四八八、八一四 一二三人

維持 田 一七、六二〇 三人

田 五〇六、五〇四 五五人

田 五〇六、五〇四 五五人

田 五〇六、五〇四 五五人

二、事業實施ノ動機及經過

大正十二年、同十三年ニ於テ千百餘戸ノ農家中僅々四十餘戸ノ自作農ヲ除ク千五十餘戸ノ農家ハ農民組合ニ加入、別個ニ小作組合ヲ組織シ、兩組合共同戦線ニテ小作爭議ヲ起シ爲メニ農村經濟ノ困憊ヲ來シ事態惡化ノ情勢ナルニ鑑ミ之ガ根本方策トシテ自作農創設ノ必要ヲ生ジタルニ因ル、而シテ村當局ニ於テハ地主小作人ニ對シ本事業ノ必要ヲ力説シ、奔走ニ努メタル結果漸ク其ノ意ヲ了解シ大正十三年度以來繼續實施シ、現在ニ於テハ自作農三百餘戸トナリ爭議ハ殆ド其ノ跡ヲ絶アリ、(資金借入ニ依ラズ自力ニヨリ購入セルモノヲ含ミタル自作農戸數三百餘戸トス)

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

三イ、小作爭議ニ及ボシタル影響
 小作料不納ニヨル土地引上ゲ、溝敷、畦畔、歩引等ヲ原因トスル爭議ノ最モ著シキ部落ニ對シ實
 施シタル處爭議根絶シ、地主、小作者間ノ融和協調成リ、村政上效果極メテ甚大ナルモノアリ、
 之ガ漸次他部落ニモ影響ヲ及ボシ農民組合ヲ脱退シ、資金借入希望者續出スルニ至レリ、現在ニ
 於テハ總貸付金額十五萬八千圓ニ達シ縣下一、二位ノ多額ノ資金ヲ借入レ將來モ引續キ實施ノ計
 畫ニシテ農業經營ノ改善進步著シキモノアリ合共同銀庫ニモ小作料納付マシメ、農林事務所、團
 體、經濟更生、農事改良、生産増加ニ及ボシタル影響ヲ得、自前年ヨリ、千五、十、百、圓ノ農家ハ農
 二、本村ニ於テハ最早本施設ノ獎勵ヲ經濟更生ノ項目等ニ挿入ノ必要ヲ認メズ年々希望者續出シ、村
 内大地主モ土地開放シ順調ナル經過ヲ見ツツアリ、資金借受者ハ小作時ニ比シ畦畔ノ改良、施肥
 法ノ改善等勞ヲ惜マズ努力シ從ツテ生産額ニ於テモ一、二割ノ増加ヲ見、近時蘭草ノ栽培盛トナ
 リ、生産ノ増加著シキモノアリ 四八八、八一四 一一二二人
 ハ、精神作興ニ及ボシタル影響
 本事業ノ實施ニ伴ヒ從來地主ト對立關係ニアリテ思想的ニ相背馳セシ小作農民ハ自作農地ノ購入
 維持ニ依リ農業經營ノ安固、生産ノ増加ヲ來シ自力更生ノ氣運著シク、思想穩健トナリ堅實ナル
 道程ヲ辿リツツアリ 五〇、〇〇〇圓 四八八、八一四 一一二二人

四、自作農組合ノ現況
 殊ニ本村ハ兒島灣ノ埋立開墾ニ依リ生ジタル農村ナルヲ以テ多クハ他地方ヨリノ移住者ヨリナリ
 村治上困難ナリシハ言フヲ俟タズ、土地分配狀況ニ於テモ殆ド大地主ノ所有ニアリシ爲小作爭議
 頻發シ民心惡化ノ狀勢ナリシモ今ヤ本施設ト村當局ノ指導宜シキヲ得所期ノ目的ヲ達成シツツア
 五、自作農組合ノ現況
 組合ハ未ダ設立ラレザルモ償還成績極メテ良好ニシテ滞納者ナシ

五二、英田郡粟廣村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額	昭和四年度	一五、〇〇〇圓
三、昭和四年度	同	八年度
ニ、同	五年度	八、〇〇〇圓
同	同	計
同	七年度	九、〇〇〇圓
同	同	三六、〇〇〇圓
ロ、創設維持別反別及人員	創設	田 五名
同	田 五名	九二、七〇二 ^歩
同	田 五名	四三人

二、事業實施ノ動機及經過

農家總戸數二百七十戸ノ内自作兼小作及小作戸數百五十八戸ニ及ビ、農村不況ニ伴ヒ自作戸數漸減シ思想ノ變移ト共ニ小作爭議惹起ノ傾向アルニ鑑ミ、昭和四年度ヨリ昭和八年度ニ至ル五ヶ年計畫ニヨリ根本方策ヲ確立シ堅實ナル農村ノ發達ヲ企圖セムトセシニ因ル

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

イ、本村ハ純農村ニシテ人情質朴、穩健ナルヲ以テ未ダ小作爭議ヲ惹起シタルコトナク因テ特記スベキ事項ヲ認メズ

ロ、近時經濟更生、農事改良、生産増加等喧傳セララルニ至リ、本村トシテハ資金借受ノ當初ノ年度ヨリ公私經濟緊縮ヲ標榜シテ各字各、二、三名ノ委員ヲ設ケ之ガ指導ニ當ラシメ、専ラ生産ノ増加ニ努メ畜牛(特ニ牝牛)ノ増殖ヲ計畫シ爾來牝牛ノ飼育數モ從前ニ倍加シ、堆肥ノ増産之ニ伴ヒ生産ノ増加ヲ圖リツシアリ、本年度ニ於テモ之ガ獎勵ノ一トシテ這般畜牛共進會ヲ開催セリ

ハ、土地愛護ノ念ヲ涵養シ思想堅實ニシテ經濟更生計畫ノ實行ニ支障ナカラシメ、一般村民ノ氣風ニ好結果ヲ及ボシタルコト甚大ナリ

四、自作農組合ノ現況

昭和四年度ノ借入ヲ記念スル爲自作農償還組合ヲ組織セリ其ノ目的ハ資金償還確保及相互共濟ニア

リテ毎收穫期ニ於テ米ノ時價ヲ考慮シ當該年度償還金ニ充當ノ爲産米ノ強制共同貯藏又ハ合同販賣ヲナシ、其ノ代金ヲ共同保管シ若組合員中不慮ノ災厄ノ爲調達困難ナルモノアルトキ、疾病等ニヨリ償還困難ナル者アル場合ハ連帶責任ヲ以テ償還スルノ方法ヲ採レリ

五、村勢概要

イ、職業別戸數

農業	二七〇
商業	四
工業	一
其ノ他	一
合計	二七五

ロ、農業戸數内譯

自作	一一二
自作兼小作	一五二
小作	六
合計	二七〇

農家總戸數ニ對スル小作歩合 〇・二二%

ハ、耕地ノ狀況

地目	自作反別小作反別	總反別	總反別ニ對スル小作反別歩合	他町村民所有反別
畑	一四・〇町	三三・二町	一九・二%	二五・七町
田	四九・〇町	八・五町	一五	六・八町

ニ、土地價格、反當收穫高、反當小作料

地目	土地價格			反當收穫高			同小作耕		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
畑	五〇〇	三〇〇	一五〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・七〇	一・一〇	一・六〇
田	一五〇	一五〇	八〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・七〇	一・一〇	一・六〇

五三、比婆郡美古登村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和五年度

一一、〇〇〇圓

ロ、創設畑持別反別及人員

創設
畑 田

五六、六二三^歩

八、二一一

田	畑	人員
五六、六二三 ^歩	八、二一一	一〇人

二、事業實施ノ動機及經過

創設地ハ舊藩時代御用鑛山ノ所在地ナリシガ、明治以後一時廣島縣勸業鑛山ナリシモ經濟界ノ變遷ニ伴ヒ廢鑛トナルヤ、鑛山ノ職人又ハ工夫タリシ者ハ他地方へ轉住セシ者尠カラザリシモ、其ノ殘留セル者ハ農業ヲ以テ永住ノ目的トシ、開田ニ從事セントノ希望ナリシヲ以テ、地主ハ開田ニ要スル勞力ハ彼等ノ提供ニ依ラシムルコトヲ條件トシ、逐次廢鑛ノ山林ヲ開墾シテ田畑トナシ二十年前

ニ於テ大部分竣工ヲ告ゲタリ、其ノ當時地主ハ畑ヲ田ニ變換セシモノ、山林ヲ開田セシモノニ對シテハ或期間小作料ヲ免除シタルモ、其ノ後小作料ヲ増徴シ或ハ小作契約ヲ改訂シテ期間ヲ短縮シ、小作人ニ不利ナル條件ヲ追加シ、或ハ從來ノ慣行タル小作權賣買ヲ禁ジ、畦畔水路ノ修繕費地主負擔ヲ拒否スル等無理強ヒニ小作人等ノ開墾ノ功績ヲ無視スルモノアリシヲ以テ、小作人等ハ結束シテ強硬手段ヲ以テ地主ニ交渉スルニ決シ、日本農民組合美古登村支部ヲ設置シ反抗ノ氣勢ヲ揚ゲ、遂ニ昭和二年七月永小作權設定外六ヶ條ノ調停申立ヲ爲シタリ

右爭議調停ノ結果ハ

- イ、本件小作地ハ現小作人祖先ニ於テ開墾シタル功勞アルニ依リ、特ニ地主ハ小作地ニ對シ民法ニ依リ二十五ヶ年ヲ存續期間トスル永小作權設定ヲ承諾ス但シ小作地ハ地主ノ小作臺帳ニ依リ
 - ロ、小作地ハ將來右永小作權存續期間内ニ於テ小作人ニ於テ、大正十五年廣島縣令第三百三十二號自作農獎勵資金貸付規定第四條第三號所定ノ標準ニ依ル價額ヲ以テ、各自之ヲ買受クルコト外十二項目ヲ以テ調停成立解決シタリ、茲ニ於テ美古登村ハ前記小作人等ノ希望ヲ入レ本件土地購入資金トシテ自作農獎勵資金借入ヲ爲スコトニ決セリ
- 三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果
- 調停條項ニ基キ永小作權設定ヲ爲サントセシ處其ノ一部ニ官有地存在セルコトヲ發見シ爲ニ其ノ手

續進捗セザリシニ付、永小作權設定前自作農資金ヲ借受ケ購入シタリ、玆ニ於テ小作人等ハ父祖以來臥薪嘗膽僻遠ノ瘠土ヲ化シテ美田ト爲セシ勞苦漸ク報ヒラレ、強權ナル地主ノ威壓ニ依ル忍從ノ生活ヨリ脱シ得テ眞ニ回生ノ歡喜ニ涵リ、思想穩健トナリ爾來孜々トシテ農事ニ精勵シ相當ノ成績ヲ擧ゲツツアリ

四、村勢概要

イ、戸數	七二八	内、住宅	三二五
内、農業戶數	六一二	地	三〇、二八六
ロ、土地	三、九四七	内、生産總額	一八〇、一六七
田	七九六	農産額	三八、二五〇
山林	二六、〇一五	林産額	三〇、二八六
		蠶産額	

五四、比婆郡下高野山村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額
昭和二年度 二五、〇〇〇圓

同 三年度

計 二二、〇〇〇圓

田	一一四、三一〇
畑	一〇、四〇八
創設	二七人
其他	四三四、六二一
宅	四、四〇五

二、事業實施ノ動機及經過竝實施後ノ狀況

本村ハ陰陽分水嶺ニ接シ縣下北境ノ寒村ニシテ、舊藩時代ニ於テハ砂鐵ノ採掘及製鐵ノ業盛ニ行ハレ住民ハ農業ノ傍鎚一挺斧一箇ニテ生活ヲ維持シ得タル地ナリシモ、明治維新以降製鐵業衰滅ニ歸シ住民ハ生活ニ困窮ヲ告ゲ、父祖傳來ノ田畑山林家屋ヲ入質又ハ賣却セザルベカラザルニ至リ明治七年頃同村字下門田、及上里原ノ土地ハ大部分島根縣仁多郡阿井村大地主櫻井家ニ抵當流トナリテ引渡シ、爾來五十有餘年間小作人トナリテ忍從シ再起ノ機會ヲ待チツツアリシガ、大正十五年農林省令ヲ以テ自作農創設維持補助規則ヲ公布セラレ、亞テ同年廣島縣令ヲ以テ自作農獎勵資金貸付規程ヲ發布セラルルヤ本村字下門田、上里原ノ小作人十七名ハ蹶起シテ縣ヨリ資金ヲ借入レ、祖先墳

墓ノ地ヲ買戻サントシ同年七月八日地主ニ對抗上「自作農獎勵組合」ナル小作人團體ヲ組織シタリ
組合ノ趣旨綱領左ノ如シ

- 一、下高野山村營トシテ自作農獎勵資金貸付規程ヲ設ケラレシコトヲ請願スルコト
- 二、地主ニ對シ安價ニテ小作地ノ還付ヲ要求スルコト
- 三、場合ニ依リテハ小作料ノ減額ヲ要求スルコト
- 四、小作地ノ不返還同盟ヲ締結シ如何ナル事情アルモ現在小作人ノ手ヨリ小作地ヲ他ニ奪ハレザル

五、一般社會ノ後援ヲ得テ不耕作同盟ヲ結ブコト

六、組合員一同ハ血判狀ヲ作成シ置クコト

同村長ハ小作人等ノ熱烈ナル希望ト眞摯ナル態度トヲ觀、彼等ノ興亡ノ岐ルル重大問題ニシテ、事
頗ル緊急ヲ要スルモノナルヲ認メ自作農獎勵資金借入レニ依リテ土地買戻シヲ爲サシメンコトヲ決
意スルニ至レリ

小作人一同ハ村長ヲ介シテ地主ニ對シ附屬山林、宅地、家屋ヲ加ヘ田反當四百圓内外ニテ賣渡ヲ求
メタルニ、地主ハ段當六百六十圓内外ニ非ザレバ應諾セサルノ模様アルニ依リ、交渉頓挫シ小作人
側ハ憤慨シ事態不穩ノ形勢アルニ依リ、大正十五年十一月二十九日小作官同村ニ出張シ小作人側ヲ

慰撫シ、尙土地價格ハ農林省令ノ標準價格以下ニテ地主ニ賣買交渉スベク勸誘シ、村長及小作人總
代ハ小作官ノ意見ニ準ジ同年十二月二十四日地主宅ニ到リ讓歩ヲ求メ地主モ之ヲ應諾シ、左ノ和解
條件成立シタリ

- 一、小作地田十四町八段九畝九步、畑三町八段五畝五步、此ノ附屬山林七十八町二段四畝十一步、
原野五段七畝十六步、宅地二千三十二坪其ノ他附屬建物稻乾抗全部、種粃二十九石九斗八升及此
ノ地所ニ附屬スル水利權等地主所有權一切
- 右賣買代金七萬一千四百八十七錢五厘此ノ契約保證金七千四百九十八錢八厘、大正十五年
十二月二十四日契約ト同時ニ支拂、殘金六萬三千九百四十四圓八十八錢七厘昭和二年十二月十五

三、日支拂ノコト

二、下高野山村ハ昭和二年二月中ニ自作農獎勵資金借入ノ申請ヲ爲ス、地主三名ハ賣約ノ承諾書ニ
調印スルコト

三、昭和二年度ノ小作米ハ全部地主櫻井家ヘ納入スルコト

四、現在小作人ガ地主ヨリ借用シ居ル作倉米ハ昭和二年度小作米ト同時ニ返納スルコト

五、賣渡人買受人互ニ善意ヲ以テ本契約ヲ履行スルハ勿論ナルモ萬一違約ヲ生ジタルトキハ何レヨ
リ申出ヅルモ總代金額ノ三割ヲ損害賠償トシテ違約申出タル者ヨリ他ノ一方ヘ提出スルコト

賣買契約成立後小作人間ニ於テ「昭和覺書」ヲ作製シ一同署名捺印シタリ、斯クテ下高野山村ハ自作農創設事業ヲ施行シ縣ニ對シ資金借入ヲ申請シタルヲ以テ、縣ハ昭和二年度ニ於テ貳萬五千圓同三年度ニ於テ貳萬貳千圓計四萬七千圓ヲ貸付シ、村ハ縣ノ資金ヲ自作農創設希望者ニ轉貸シタル結果、小作人等ハ多年熱望シタル祖先墳墓ノ地ヲ買戻シ茲ニ健實ナル自作農家トシテ更生ノ一步ヲ踏ミ出シ爾來農事ニ精勵シ、成績顯著ナルモノアルヲ以テ他町村ノ小作人モ之ヲ倣ヒ機會アラバ自作農タルヘキ希望ヲ一層向上セシメタリ

三、村勢概要

イ、戸数	三七一	ハ、生産總額	一七二、九二七 <small>円</small>
内 農家戸數	三三九	農 産 額	九一、〇七八
ロ、土地		林 産 額	一〇、一〇二
田	二、六四七 <small>反</small>	畜 産 額	六、二〇三
畑	六七八	蠶 産 額	四、七八七
山林	五〇、七四四		

山口縣

五五、都濃郡福川町

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和八年度

三二六、九〇〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

創設田

六六、八〇九歩

二、事業實施ノ動機及經過

三同町室尾開作ハ今ヨリ百五十餘年前舊徳山藩主ノ開拓ニ係リ、爾來轉々シテ隣接徳山町木村某ノ所有トナレリ、然ルニ右木村某ハ家政ノ事情ニ因リ昭和八年春其ノ一半ヲ賣却スルノ餘儀ナキニ至リタレバ、先ヅ以テ其ノ買受方ヲ關係小作人ニ交渉スル所アリシモ、土地價額ノ點ニ於テ遂ニ其ノ協調ヲ見ルニ至ラズ、已ムナク之ヲ第三者ニ賣渡サムトセリ、此ノ形勢ヲ觀取シタル小作者側ハ驚愕シ相謀リテ買取價額ノ裁定調停方ヲ本縣小作官ニ申出テタリ、小作官ハ數次ノ實地調査並折衝ノ結

果、小作人ガ有スル準小作權ノ代償トシテ、平均反營百圓程度ノ價格引下ダヲ爲シ、永年ニ亘ル小作人ノ勞苦ヲ犒フ意味ヲ以テ、地主ヨリ小作人全部ニ對シ金一封ヲ交付スルコトトシ、且自力ヲ以テ購入シ能ハザル者ニ對シ自作農創設資金ヲ融通スル案ヲ樹テ町當局ノ斡旋ト相俟ツテ協調ニ努メタル結果、兩者ノ容ルル所トナリ半歲ニ亘ル本件紛爭ノ解決ヲ見タルモノナリ、

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

一、前記調停案ニ基キ町ニ於テハ俄ニ自作農創設ニ關スル事業計畫ヲ樹テ、前掲二十六名ニ對シ合計三萬二千九百圓ノ資金ヲ轉貸シ自作農地六町六反歩餘ノ購入ヲ助成シ、紛爭全ク霧消スルニ至リ、數十年來ノ小作人ハ一朝數反歩ヲ有スル中堅自作農ニ轉ジ各戸喜々トシテ農耕ニ勵ミ、未ダ其ノ成績ノ微スベキモノナシト雖關係者ノ多クハ購入第一年ニ於テ既ニ五分乃至一割程度ノ增收ヲ見込ミ、米價ノ昂騰ト相俟テ相當自家經濟ヲ良好ナラシムルモノト認メラル

四、自作農組合ノ現況

自作農地賣買成立ト同時ニ地主、小作兩者ハ早春長閑ナル吉日ヲトシ同開作開墾紀念碑前庭ニ相集ヒ、縣及町當局立會ノ下ニ惜別ノ小宴ヲ張リ、席上自作農共勵組合ノ設立ヲ誓ヒ、地主其ノ舉ニ賛シ金壹千圓ヲ交付シテ共勵組合發展ノ前途ヲ祝福スル所アリタリ
同町ハ地域内ニ廣大ナル鹽田ト漁獵部落ヲ有スルヲ以テ半農者多ク耕地僅少ナレバ、從來土地價額

比較的高價ナリシモ前記ノ經過ニ因リ小作人ハ田地反當四百五十圓乃至五百圓程度ヲ以テ買取シ得タルハ同地方ニ異トスル所ナリ

五六、阿武郡高俣村

一、資金貸付概要

昭和八年年度、町會一入テ一七、六八五圓式ニ共ニ貸付シ、其ノ中、本村ニ對シハ、町會士田金、創設維持別反別及人員ニ對シ各對該等ノ貸付額ニ對シ、林江ノ聯合保田會ニ對シ、町會士田金

九四、九〇三^歩

四三人

創設

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

田 畑 宅 田 畑 宅

二、事業實施ノ動機及經過

同村ハ山間僻陬ニ位シ經濟事情極メテ不良ニシテ、村内耕地ノ約三割ハ他都市町村人ノ所有スル所トナリ、農家ノ大部分ハ小作人又ハ自小作階級ニシテ農業收益尠ナク村勢ハ年ト共ニ衰ヘツツアルヲ患ヒ、村ハ昭和八年度ニ經濟更生計畫ヲ定ムルト同時ニ本事業ヲ村是ノ一ニ加ヘ之ヲ實施スルコトトナリ、先ヅ他都市町村人ノ所有ニ遷レル地内ノ耕地買戻シヲ策シ、此等中堅農ノ振興ニ因リ漸次村勢ノ挽回ヲ圖ラムトスルモノナリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ

本事業ハ同村經濟更生計畫ニ依ル各種施設ノ實行強調ニ伴ヒ、村民ノ氣分緊張裡ニ着手シ初回借入申込者中ニハ、神官二人、僧侶一人アルガ如キハ他地方ニ其ノ例ヲ見ザル所トス、本村ニ於テハ神官僧侶ガ徒ニ氏子信徒ノ喜捨献金ニ俟ツハ農村ノ極度ニ疲弊セル今日最モ考慮ヲ要スルモノトシ率先以テ自力更生ノ模ヲ示スノ要ヲ痛感シ、前記ノ如ク自作農地ヲ購入シ新ニ役牛ヲ繋ギ數反歩ノ田畑ヲ耕作シ、自給自營以テ村ノ更生ニ寄與セムトスルニ出デタルモノニシテ、其ノ舉ハ縣下各地方ノ視聽ヲ集メ其ノ成功ヲ祈リツツアリ

尙同村内ニ約五十町歩ノ小作地ヲ所有スル島根縣鹿足郡某地主モ本村ノ事業ニ賛シ、所有土地全部ノ賣渡ヲ俟テ關係小作者ニ玄米百俵ヲ交付スベキコトヲ約シ、既ニ初年度ノ事業終了ニ依リ内五十俵ノ交付ヲ受ケタレバ、村當局ハ之ヲ關係小作人ガ設立セル自作農共勵組合基金トシテ備荒貯蓄セリ

四、自作農組合ノ現況

初回自作農創設後直ニ自作農共勵組合ノ設立ヲ見タルガ設立當初ニ於テ前記ノ如ク地主ノ寄附ニ依リ相當多額ノ基金アリタル關係モアリテ一般組合員ノ氣分極メテ緊張シツツアルヲ以テ今後優良ノ成果ヲ納メ得ルモノト認メラル

徳島縣

五七、板野郡松茂村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額	昭和元年度	五三、五〇〇圓	同	三年度	二五、〇〇〇圓
	同	二年度	六三、五〇〇圓	計	一四二、〇〇〇圓
ロ、創設維持別反別及人員					

田	三〇九、六〇一 ^反
畑	六、三二八
創設	七五人
宅	一、二〇八 ^坪

二、事業實施ノ動機及經過

以下記スル處ノ板野郡松茂村住吉、豊岡新田永小作地分割調停狀況ニ依リ其ノ事情ヲ審ニスルコトヲ得ベシ

○板野郡松茂村豊岡新田永小作地分割調停經過概要

- 一、係争地ノ種類及面積
 - イ、(民法施行後五十年繼續スベキ) 永小作 田 三五九、四〇一^反
 - ロ、(同) 畑 三四、一〇六
 - ハ、地上權設定宅地 六、八四九^坪
- 二、關係地主及小作人
 - 地主 濱口益
 - 小作人 七九名 板野郡松茂村大字豊岡 南東常太郎 (外七十八名)
- 三、申立ノ趣旨

本地ハ享保元年板野郡宮浦人板東茂六ナル者、藩主ノ許可ヲ受ケ新田築造ノ工事ヲ興シ、文政七年ニ至リ稍開墾ノ緒ニ就ケリ、然ルニ瀬海ノ僻邑毎年風浪ノ侵ス所トナリ、堤防ノ潰壞ヲ見ルコト屢ニシテ之ガ復舊ノ費ニ堪ヘズ、遂ニ明治二十一年ニ至リ其ノ子孫タル豊岡保壤ハ之ヲ蜂須賀侯爵家ニ賣渡スニ至レリ、明治四十四年八月ニ至リ村民代表者南東常太郎外二名ニ於テ蜂須賀家ヨリ豊岡新田田畑宅地全部及溜池、原野、其他雜地全部ヲ代金六萬七千圓ヲ以テ買受クベキ約定ヲ結ビタルガ、調金ニ困難ヲ訴ヘシ爲已ムナク豊成清藏、谷官太郎ノ兩名ヲシテ其ノ代金ヲ支拂ハシムルト共ニ耕地及宅地七十五町步中二十八町五反步竝ニ溜池、原野、雜地ヲ豊成及谷兩名ノ所有地トシ、殘餘ノ耕地及宅地四十六町五反步ハ村民各個人ニ於テ所有スルノ契約ヲ締結シ、茲ニ永小作地ノ分割ヲ行ヒ自作農創設ノ計ヲ樹テタリ、然レ共村民中ニハ此分割ニ異議者アラムコトヲ慮リ不同意者ハ本契約ニ拘束セラルルコトナク其ノ好ム所ニ從テ依然豊成及谷兩名ノ永小作者タルコトヲ得ルノ條項ヲ設ケタリ、此契約ニ基キ分割ヲ受ケタルモノ約三十町步、永小作地トシテ殘存セシモノ約四十五町步ニシテ今回ノ自作農創設ハ此分割ニ參加セザリシモノトス

前記分割ニ際シ地主ト小作權者トノ分割步合ハ平均地主三分五厘一毛永小作權者六分四厘九毛ニシテ、今回ノ賣買價格ノ評價ニ當リテモ小作人側ハ此慣例ヲ基礎トスベキコトヲ希望スルト共ニ政府ノ獎勵セル自作農創設ノ主旨ニ基キ、將來永ク獨立ノ農民トシテ子孫ノ計ヲ講ゼムトノ趣旨

ヲ以テ、昭和二年二月十八日調停ノ申立ヲ爲シタリ
四、調停經過
イ、調停委員會回数
六回

ロ、受理ヨリ成立ニ至リシ日數
四ケ月半

ハ、小作人ノ主張、地主ノ純所得ヲ〇・〇六二二七ニテ除シタル價格六萬二千六百十二圓二十二
錢ニテ讓渡ヲ受クルコト（此ノ場合ハ四萬三千圓ノ自作農資金ヲ縣ヨリ貸付スル様斡旋セラレ

ニ、地主主張
タシト希望）又ハ地主三二小作六八ノ割合ヲ以テ所有權ヲ分割讓渡スルコトニ異議無クシテ
ニ、地主主張
附近新田ノ大部分ハ小作調停法ニ依リ小作人ニ一括讓渡成立ノ今日自分ニ於テモ飽迄關係小作

人ノ自作農創設ヲ拒ムモノニアラズ、但シ自己ノ財産分配ノ上ヨリスレバ一面確實ナル土地資
本ヲ所有シ置ク必要アリ、然レドモ該新田ノ管理者タル川内村長吉田某ヨリモ種々注意ヲ受ケ

ツツアル際ナレバ、小作人ガ縣ノ低資借入可能如何ニ係ラズ一兩年間ニ代金完納シ得ルナラバ
左記價格其ノ他ノ條件ヲ以テ賣却スルモ可ナリ

價額拾壹萬圓（內金五萬五千圓ハ昭和二年十二月末日迄ニ、金五萬五千圓ハ同三年十二月末日
迄ニ）支拂フコト

昭和二年度小作料ハ地主ニ完納ノコト

昭和三年度支拂ニ屬スル金五萬五千圓ニ對シテハ相當ナル利子ヲ附スルコト

昭和二年度公租公課ヲ地主負擔トシ、同三年度ニ屬スル公租公課ハ地主ニ納入ノコト

以上兩者ノ主張ニ對シ小作官及調停委員會ノ意見ハ相當價格ニテ小作人ニ一括分讓セシムルコ
トトナリ、地主ニ賣却方折衝スルト共ニ地主小作双方ヨリ五ヶ年平均地主ノ小作料所得竝ニ五

ヶ年平均公租公課其ノ他該新田ニ屬スベキ總テノ土地負擔ヲ記載計算セシムルコトトシ、右提
出セルモノニ付小作官ヲ中心トシテ之ヲ査定スルコトトナリタリ

右ノ結果ハ小作人ノ提出セルモノハ算出ノ方法其ノ他杜撰ニシテ地主ノ提出シタルモノ寧ロ正
確ニ近キ結果ヲ呈セリ而シテ双方對照ノ上委員會ニ於テ決定セシ地主ノ所得竝ニ負擔左ノ如シ

- 一、米百九十石六斗八升四合 契約小作料
- 八石二斗八升 五ヶ年平均免引米

- 差引百八十二石四斗四合 五ヶ年平均實納米小作料
- 一、麥三十四石四斗九升四合 契約小作料
- 一石五斗 五ヶ年平均免引麥

- 差引三十二石九斗九升四合 五ヶ年平均實納麥小作料

一、金六千四百三十一圓七十五錢二厘 地主收得小作料

内訳

金六千九百三十三錢二厘 實納小作米百八十二石四斗四合 一石三十三圓建

金四百十二圓四十二錢 實納麥小作料三十二石九斗九升四合 一石十二圓五十錢建

一、金壹千五百九十二圓九十二錢 地主支出

地租、縣村附加税、同上特別附加税、農會費、水利費、大字協議費、新田關係道路、橋梁堤防、樋門修築修理費、神社費、用悪水路、浚渫、藻刈費、小作人慰勞費、管理人給料等一切

差引金四千八百四十八圓八十三錢二厘 地主純所得

以上地主ノ純所得ニ對スル委員會ノ算定ヲ地主小作人側ニ承認方折衝ノ所小作人ハ直ニ了承地主ハ管理人ノ手當金百圓及新田買取以來一回ノ支出ノミニテ其ノ後殆ド負擔ニ屬セザル北麓用水水利費百圓ノ計上ハ不當ナリトノ意見アリシモ結局之ヲ承認セシムルコトトシ、右純所得ヲ地主目下ノ土地利廻ニ大體該當スル様、或ル率ヲ以テ除スルコト最モ至當ナル方法タルコトニ協調ヲ進メタル結果、双方ヨリ種々ナル意見出テ小作人ハ地主純所得ヲ農林省ノ算式ニヨル〇〇六二二七二八ニテ除スル様主張シ、地主ハ一般地主ノ土地利廻タル四分五厘ニテ除スルノ至當ナルヲ主張シテ讓ラズ、之ガ爲委員會ヲ開催スルコト三回ニ及ビ結局小作官及委員意見タル地主ノ純所得ヲ本縣自作農ノ標準土地利廻タル五分三厘ニテ除シタル價額即チ九萬五百圓（反

二百十九圓八十六錢）ヲ以テ正當價額トナシ、主任判事、小作官、調停委員熱誠之ガ説示シ終ニ六月二十八日第六回委員會ニ於テ右價額ヲ認メシムルト共ニ、地主ヨリ小作人ニ農事改良資金三千圓ヲ交付スルコト、縣ハ昭和二年ヨリ三年ニ亘リ小作人ニ四萬三千圓ノ低資貸付方斡旋ニ盡カスル等ノ附帶條件ヲモ併セ解決スルニ至リ、小作惣代ハ勿論當日ハ多分成立スベシトノ豫感ヲ以テ裁判所構内ニ集來セル七十餘名ノ小作人ハ喜悅其ノ極ニ達セリ

○調停條項

- 一、相手方ハ相手方ノ所有ニ係ル板野郡松茂村豐岡ニ於ケル別紙目錄（省略）記載ノ不動産全部ヲ申立人南東常太郎外八十一名ニ對シ代金九萬壹仟五百圓ニテ賣却スルコト
- 一、右買受代金中四萬七千二百五十圓ハ昭和二年十二月末日限り支拂ヒ殘金四萬四千二百五十圓ハ昭和四年三月末日限り相手方ニ支拂フコト
- 一、相手方ハ第一回代金受領ト同時ニ申立人ニ對シ農事改良資金トシテ金三千圓ヲ交付スルコト
- 一、昭和二年度小作料ハ從來通り相手方ニ納入スルコト
- 一、第二回代金四萬四千二百五十圓ニ付テハ昭和三年一月一日ヨリ年六分ノ利息ヲ附加スルコト
- 一、本件不動産ニ對スル昭和三年度以降ノ公租公課ハ申立人ニ於テ負擔スルコト
- 一、相手方ハ代金全部ヲ受領スルト同時ニ豐岡神社敷地及墓地ヲ豐岡傍示ニ寄附スルコト

一、相手方ハ申立人ヨリ代金ヲ受領スルト同時ニ所有權移轉登記ノ手續ヲ爲スニト

一、所有權移轉登記ニ要スル費用ハ申立人ノ負擔トス

永小作田	三十五町九反四畝十步
畑	三町四反一畝六步
備考	同上
地上權付宅地	六千八百四十九坪
合 計	四十一町六反三畝二十五步

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

右ノ如ク永年問題タリシ本村永小作地モ遂ニ小作人ノ手ニ歸シタルヲ以テ、從來抛擲セラレタル土地ノ改良ニ全力ヲ注ギツツアリ

五八、三好郡三名村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和五年度	二五、〇〇〇圓	同 八年度	一三、〇〇〇圓
同 六年度	一五、五〇〇圓	計	六三、五〇〇圓
同 七年度	一〇、〇〇〇圓		

ロ、創設維持別反別及人員

田	二一、九〇二 ^反	田	九、四一八
畑	二五三、二〇一	畑	八〇、四二〇
宅地	五、一一三	宅地	一、一〇六
計	二七〇、〇一六	計	一三三、三二〇
田	三三三、六二一	田	三三三、六二一
畑	六、二一九	畑	七〇人
宅地		宅地	
計		計	

二、事業實施ノ動機及經過

昭和五年來ノ農村不況ハ農家經濟ヲ極度ニ窮迫セシメ、農業經營極メテ困難ニ陥リ從テ自己所有地ヲ賣却シテ小作人トナリ或ハ離村スルモノ逐年増加スルト共ニ、時代ノ推移ニ從ヒ小作料減免ニ關スル爭議發生ノ徵候アリタルヲ以テ、之ヲ未然ニ防止スルト共ニ本施設ニ依ツテ健全ナル自作農ヲ創設維持スルコトハ村經濟更生上ニモ極メテ重要ナル施設ナリトシテ昭和五年度ニ於テ初メテ本資

金ヲ借入レ之ヲ實施シタルニ、逐年借入者増加シ爾來引續キ之ヲ實施シツツアリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果
事業實施後ニ於テハ各借受人ハ特ニ農事ノ改良竝ニ副業ニ努力シテ收入ノ増加ヲ圖リ、殊ニ借受人ハ誓約書ヲ村ニ提出シテ村長ノ指揮ニ從ヒ、償還ニ就テハ季節毎ニ物産ノ賣上高ヨリ天引貯金ヲ勵行シ時間ノ嚴守、節酒、冗費ノ節約、勤勞精神ノ作興、一家和合等他ニ率先シテ之ヲ實行セル爲、經濟更生ニ資スルコト多大ナルノミナラズ精神作興上ニモ裨益スル所尠カラズ他ノ模範トナリツツアリ、殊ニ本村ハ昭和八年度經濟更生指定村トナリタル爲、各種ノ更生計畫ノ樹立遂行ニ努力シツツアルモ、本施設ニ付テモ亦計畫ヲ樹テ本村ニ於ケル小作田三町五反、畑二十六町二反ノ内此ノ八割ヲ昭和九年度ヨリ向五ヶ年間ニ本資金七萬四千圓ヲ借入レ自作農三十八戸ヲ創設シ、又現在土地購入ニヨリ負債ヲ有スルモノ二十戸所有田一町五反、畑十三町二反ニ付急ヲ要スルモノヨリ順次自作農資金三萬七千五百圓ヲ借入レ本年度ヨリ三ヶ年間ニ之ヲ維持セシムルコトトセリ

五、村勢概要

三名村ハ本縣三好郡ノ西南ニ位シ、東ハ吉野川ヲ隔テ美馬郡西夜谷山村ニ對シ、南ハ高知縣長岡郡ニ接シ、北ハ山城谷村ニ連ル村内山岳連綿起伏シテ行路平ナラズ、地勢ハ概シテ西南ヨリ東北ニ傾斜セリ

Table with 2 columns: 一、面積 (Area) and 二、産業 (Industry). 一、面積: 六方里、東西二里、南北三里. 二、産業: 養蠶、煙草、三椏、麥、芋類、製炭等ヲ主ナル産業トス.

Table with 2 columns: 山林 (Forest) and 宅地 (Residential land). 山林: 二七三八、五一四. 宅地: 一一一五〇、〇〇〇.

香川縣

五九、木田郡川島町

一、資金貸付概要

Table with 2 columns: 一、年度別貸付金額 (Annual loan amounts) and 二、創設維持別反別及人員 (Loan types and personnel). 一、年度別貸付金額: 昭和元年度 五、二〇〇圓, 二年度 二、四〇〇圓, 三年度 四、〇〇〇圓, 四年度 五、八〇〇圓, 五年度 一二、四〇〇圓. 二、創設維持別反別及人員: 同 六年度 一三、六〇〇圓, 同 七年度 七、九〇〇圓, 同 八年度 九、二〇〇圓, 計 六〇、五〇〇圓.

口、創設維持別反別及人員

創設	田	一四二、四一七 ^反	田	一一人
	畑	五二一		
維持	田	二七、〇二七	田	五五人
	畑	一六九、五一四	田	六六人
計	田	一六九、五一四	田	六六人
	畑	五二一		

二、事業實施ノ動機及經過

大正十一年秋季ヨリ同十二年ニ涉リ本町内一圓ニ小作問題起リ、小作料二割減額ノ要求ヲナセシモ地主容易ニ應セズ、終ニ小作人ノ過半ハ日本農民組合ニ加入シ紛議ヲ重ネ容易ニ解決ニ至ラザリシガ、町當局ニ於テ之ガ解決機關トシテ地主、自作、小作等ヲ網羅セル振興會ヲ組織シ、此等ノ委員ニ依リ耕地ノ實狀調査ヲ行ヒ町内小作料ノ改定ヲ行ヒテ約一割程度ノ減額ヲ爲シ大正十四年同問題モ一時小康ヲ保テリト雖、紛議以來百數十年來所有シ來タリシ村外大地主ハ所有地ヲ賣却スルニ至リ仲介者ノ策動、或ハ苛酷ナル資本家ノ買占メ竝小作料ノ値上計畫ノ策動等アリテ、小作者ハ一日トシテ安ンジテ農耕ニ從事スルコトヲ得ザル不安状態トナリシヲ以テ、餘儀ナク地方ニ於ケル高利ナル債務ニヨリ購入スルモノ生ゼシガ、大正十五年自作農補助規則ニ依リ同年度ヨリ年々繼續實施シ八年度迄二十七町步餘ヲ創設維持セリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

昭和元年度以來創設維持人員六十六名、貸付金六萬五百圓ニ達シ、借受人ハ何レモ熱心ニ農業經營改善ニ努力シ居ルモ大部分ハ町内各地方ニ點在シ居ル爲メ充分ナル聯絡ヲ採ルコト至難ニシテ共同的事業成績ノ特記スベキモノナキモ、宇由良山西部落内ニ於テハ昭和五年度ヨリ高松市十河某所有地約六町步餘ガ賣却セララルルニ付、之レガ小作人ハ祖先ノ代ヨリノ小作地ニテ此ノ機會ニ購入スルニアラザレバ自作農トナルノ機會亦得難シトシ、小作人協議ノ上各自ノ小作地ヲ購入スルコトニ決シ同部落農家戸數二十六名中自作農資金借入ニヨリ購入セルモノ十一名、借入金額一萬三千九百餘圓購入反別四町一反七畝步、自己資金竝ニ他ノ借入金ニヨリ購入セルモノ四名、反別一町五反五畝步ニテ地主十河氏ノ賣却地全部ノ購入ヲナセリ

然レ共同部落ノ農家ハ右土地購入前、各種ノ負債合計一萬數千圓ヲ有スル上、更ニ自作地購入ニヨリ多額ノ負債ヲ生ゼシヲ以テ從來ノ農業經營ニテハ債務ノ辨濟困難トナリ終ニハ折角購入セル自作地ノ維持困難ヲ來スニ至ルコト明カナリトテ、資金借受者十一名熟議ノ結果、他ノ土地購入者四名及其他ノ十一名ヲ勸說シ奮然昭和五年九月二十五日農事改良ニ關シ郡農會ノ指導組合ノ指定ヲ受クルコトトシ、資金借受人小野坂又次組合長トナリ同安田直副組合長トナリテ、農事經營ノ改善竝生産増加ノ計畫ヲ樹テ爾來着々實績ヲ擧ゲツツアリ

即チ同農事改良組合全員ノ耕作地ハ

田 二十四町七反步

其畑 一五反步

主要作物

稻 作 付(夏作)

裸麥、小麥作付(冬作)

ニシテ稻作收量反當二石八斗ヲ十年計畫ニテ反當四石ニ、亦麥作反當收量二石ヲ十年計畫ニテ反當四石ニ增收スルコトトシ、既ニ稻作ニ於テ反當平均二斗ヲ麥作ニ於テ平均反當四斗ノ增收ノ實ヲ擧ゲ居レリ

亦副業トシテ産贖ヲ兼ヌルニ自給肥料増産ノ目的ヲ以テ、從來二十六戸中九戸ハ畜牛ヲ飼育セズ借耕牛ナリシヲ、各戸一頭宛ハ必ズ飼育スルコトトシ目下二十四戸飼育スルニ至レリ、亦自給肥料ノ増産及勞力分配ノ目的ヲ以テ養鶏ヲ加フルコトトナシ、從來僅々數羽宛ノ飼育ニ過ギザリシヲ耕地一反步當リ十羽養鶏總數二千五百羽ヲ目標トシ、現在既ニ千八百三十羽ニ達シ之レニヨリ相當ノ副業收入ヲ擧ゲツツアルノミナラズ、從來同部落平均米麥兩作ヲ通ジ一反步當金肥施用額十八圓ヲ要シツツアリシガ畜牛及反當十羽養鶏ニヨリ金肥ハ反當平均八圓二十五錢トナリ肥料代金ノミニ於テ

反當約十圓ノ節約ヲナシ居レリ

更ニ將來ハ一反步當二十羽養鶏ヲ目標トシ反當金肥施用額ヲ三圓程度トナスベク研究ニ努メ居レリ亦農耕作業日數ハ從來一ケ年ヲ通ジ一戸平均百九十日ナルヲ、毎朝從來ヨリ一時間早起キヲナシ一ケ年約四十日ノ延長ヲ爲シ二百三十日ニスベク、資金借受人中二名其他一名之ヲ勵行シ居リ三ケ年計畫ニテ組合員全家族ニ及ボス計畫ナリ

亦生産物販賣改善ニ關シテハ米麥、鶏卵等ハ總テ産業組合ヲ利用スル等各方面ノ改善施設ヲ講ゼル爲、昭和五年以來農村ハ不況ノ難局ニ直面セシニ不拘本部落農家ハ能ク之ヲ打開シ同町全體ノ經濟更生計畫樹立ノ導火線トナリ、更ニ今回舊債整理ノ要アル十三名ノ爲本農事改良組合員二十六名ヲ以テ負債整理組合ヲ率先組織スル等經濟更生ニ邁進シツツアリ

○農事改良組合員二十六名ノ農業經營現況

稻	作	二六六戸
裸	麥	二六六戸
小	麥	二六六戸
養	雞	二六六戸
畜	牛	二六六戸

養蠶 桑園五反歩掃立蟻量四五〇瓦
 吹 四、〇〇〇^枚

四、自作農組合ノ現況

組合設立 昭和五年十二月五日
 目的 資金償還ノ確保、組合員ノ互助、農業經營改善
 團體組織ノ地域 町一圓
 團體員ノ種類及數 國庫補助施設ニ依ル資金借受人 六六名
 組合長 同町長
 備荒貯蓄現在高 六九八、六四〇^円
 本年度償還金合計 三、七六七、五二〇
 從來ノ償還狀況 毎年償還遅延スルモノナシ

五、町勢概要

高松市ヨリ東南約三里ニアリ耕地平坦ニテ水利ノ便良好ナリ
 イ、耕地 三八〇町

畑 三〇
 山林 四二
 戸數 八三五

内 農業 四五五
 商業 一一七
 工業 一一〇
 其他 一四三
 ニテ百數十戸ノ街アリテ、大正十一年町制實施セルモ其ノ他ハ
 農業ニ從事シ居レリ
 ハ、生産物

農産物 三三九、一一八^円
 (主ナルモノ米、麥、繭、鶏卵)
 工業産物 三七九、三七四^円
 (主ナルモノ清酒、醬油、石材)
 ニ、由良山西部落ノ概要
 同部落ハ川島町ノ西北隅由良山ノ麓ニテ二十六戸全部専業農
 家ニシテ耕地田チ主トシ二十五町二反歩アリ

六〇、大川郡長尾町

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和元年度	五、六〇〇圓	同	五年度	六、〇〇〇圓
同 二年度	六、一〇〇圓	同	同 六年度	二四、〇〇〇圓
同 三年度	六、〇〇〇圓	同	同 七年度	三、二〇〇圓
同 四年度	九、八〇〇圓	計		六〇、七〇〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

創設		維持		計	
畑	田	畑	田	畑	田
六二九	一一五 ^反	二五	七二七	一五四	九一二
三、二二五		一、八〇六		五、一〇一	
	五三人	七人			六〇人

二、事業實施ノ動機及經過

同町ハ大正十二年秋季ヨリ小作人結束シテ小作料ノ減免要求ヲナセシガ地主之ニ應ゼザリシ爲、終ニ日本農民組合ニ加盟シ同組合ノ應援ヲ受ケ小作米不納同盟ヲ行フニ至リシヲ以テ、地主側ハ之ガ持久的對抗方法トシテ相互土地株式會社（出資地主十二名、土地約二百町步）及長尾土地合資會社（地主七名、管理土地約百二十町步）ノ二會社ヲ組織シ、小作料ノ取立、訴訟等ノ機關トナシ、小作人側亦日本農民組合縣執行委員長ヲ町内ヨリ出シ之ト對抗セリ、而シテ地主側ハ立入禁止或ハ立毛差押等ニヨリ繋争ヲ重ネシガ大正十五年地主側ヨリ約一割程度ノ減額ヲ行ヒ、一面農民組合側ハ内証ヲ生ジ漸次統制ヲ缺クニ至リ争議モ平穩ニ歸セシモ土地會社ハ依然存續シ居レリ

而シテ土地會社及其他ノ地主中ニハ小作料ノ減免ト共ニ今後ニ於ケル争議等ヲ避クル爲、土地ヲ賣却スルモノアリシニヨリ小作人ハ餘儀ナク地方ノ高利債ニヨリ購入シツツアリシガ、大正十五年自作農創設維持補助施設ノ實施ヲ觀ルニ至リ町當局ハ同年度ヨリ以來年々繼續本事業ヲ實施シ約十六町步ヲ創設維持セリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

本町内ニ於ケル資金借受人ハ各所ニ散在シ居リ何レモ農事ニ精勵シツツアリ、就中字下名農事改良組合區域内ニ於テ昭和三年、四兩年度ニ六名ニテ資金八千五百圓ヲ借受ケ田約二町步ヲ創設セシニヨリ一層農事改良ノ氣運ヲ助長シ、内一名ハ農事改良組合長トナリ他ノ資金借受人ト協議シ自作農地購入ヲ機會ニ收益増加ノ途ヲ講ズルノ要アリトシ、同地方トシテハ主作物タル稻作ノ增收ニ俟ツノ外ナク然モ從來有機質肥料ノ施用不十分ナリシ爲地力ノ減退ヲ來シ居ルヲ以テ、先ヅ地力増進ヲ急務ナリトシ、資金借受人以外ノ農事改良組合員ヲモ勸奨シ昭和四年ヨリ之ガ方法トシテ數町隔タリタル溜池ニ集積セル腐植質泥土ヲ同組合全耕地ニ毎年客土スルノ計畫ヲ樹テ、組合員ノ出資及借入金ニヨリ二千圓ヲ投ジ泥土搬出用「トロツコ」三臺及「レール」四百間ヲ購入シ、秋冬農閑ヲ利用シ相當年々千數百貫宛ヲ客土セリ、爲ニ耕土ハ深ク且有機質豐富トナリ稻作ニ於テ反當收量二斗乃至三斗ノ増加ヲ來シ、金肥ニ於テ反當二圓内外ノ節約ヲナシ、更ニ麥作ニ於テハ反當收量二斗内外ノ増

收ヲ舉グルニ至レリ
 而シテ右器具ハ同組合ニテ使用セザル期間ハ之ヲ他部落或ハ他町村へ賃貸シ、當初ノ設備費ハ既ニ全部償却ヲ了シ居レリ
 尙同部落へ自作農資金ヲ貸付テ以來農事改良ノ成績向上シ、全組合員左ノ農業經營組織ニヨリ生産増加ヲ圖リツツアリ
 ○組合員四十三名ノ農業經營狀況
 稻 作 四三戸
 麥 作 四三戸
 甘 藷 二〇戸
 米國種葉煙草 八戸
 桑 園 二二戸
 畜 牛 三五戸
 養 雞 飼育羽數二五〇〇羽
 四、自作農組合ノ現況
 組合設立 昭和六年七月二十八日

目的 資金償還ノ確保、組合員ノ互助、農業經營改善

團體組織ノ地域 町一圓
 團體員ノ種類及數 國庫補助施設ニ依ル資金借受人 六〇名
 組合長 同町長
 從來ノ償還狀況 毎年償還遅延スルモノナシ
 活動ノ狀況 前項記述ノ通ナリ

五、町勢概要

長尾町ハ高松市ヨリ東方約四里ニテ戸數一、三四二戸、大正四年町制實施セルモノニテ市街地ハ全部北部縣道ニ沿ヒ約四百戸ノ商工業アリ其ノ他ハ農家ナリ

田	四八二、〇
畑	六八、六
計	五五〇、六
山林	一、一七七、〇
戸數	八一二
農業	三五五
商業	三五五

工業	四五
其他	一三四
合計	一、三四二
ハ、主要生産物	
農産物	四三八、九四〇
畜産物	二一、八三〇
農業副業品	一三、一〇〇
工産物	九八、六五〇
林産物	一〇、一四〇
合計	五八二、六六〇

ニ、字下名部落ノ概要

同部落ハ同町ノ中央部ニテ戸數四十三戸全部農業ニ従事シ自

作五戸、自作兼小作二十二戸、小作一六戸、耕作反別田二三
八反歩、畑二七反歩ニテ米麥作ヲ主トス

六一、綾歌郡陶村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和元年度	四、七〇〇圓	同	六年度	一〇、一〇〇圓
同 二年度	三、八〇〇圓	同	七年度	一三、八〇〇圓
同 三年度	四、〇〇〇圓	同	八年度	一二、八〇〇圓
同 四年度	四、〇〇〇圓	計		六三、一〇〇圓
同 五年度	九、九〇〇圓			

ロ、創設維持別反別及人員

創設	田 二九、六二〇 ^反	三九人
畑	五、二二八 ^歩	
維持	田 七〇、四二二	二〇人
畑	二、四一〇	
計	田 一九〇、一〇二	五九人
畑	七、七〇八	

二、事業實施ノ動機及經過

本村内耕作地ハ從來村民ノ所有相當多カリシモ經濟界ノ不況ニ基因シ、大正十二年頃ヨリ有産階級ノ没落相續キ大地主ハ減少シ且小地主ニ於テモ小作爭議ノ爲卸米ノ低減及部分的滯納等ニ依リ、彼等ノ生計ニ支障ヲ來スモノ尠ナカラザル状態トナリ之亦漸次減少シ爲ニ村民所有ノ耕地面積ハ次第ニ縮少セラレ、他町村民ノ所有ニ歸シタルモノ田十五町歩ニ達セシ趨勢ニ鑑ミ堅實ナル農家タラシムル爲、村當局ニ於テ自作農創設維持ニ意ヲ用ヒ、大正十三年頃ヨリ村産業組合ヨリ資金ノ供給ヲ仰ギ之ガ獎勵ニ努メツツアリシ處、大正十五年自作農創設維持補助規則ノ公布ニ依リ爾來毎年繼續シテ資金ノ融通ヲ受ケ約二十町歩ノ創設維持ヲ爲シタリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

本村内資金借受者ハ村内各地ニ散在シ居ルモ、内字猿王ノ區域ニ於テハ借受者十一名ガ集團シ壹萬壹千八百四拾圓ノ資金ヲ借受ケ田畑三町四反歩ヲ創設維持セリ

即チ昭和四年村内大地主タリシ細谷某ガ負債整理ノ爲約九町歩ノ田地ヲ處分スルコトナリ、高松市在住大眉某外四名ガ之ヲ一括共同落札シ、其ノ小作人竝ニ其他希望者ニ相當高價ニ分賣セムトセシモ、値段ノ關係上購入スルモノナカリシニ依リ、更ニ手段ヲ變へ曩ニ村當局斡旋ニヨリ減額セシ小作料(反當減額一斗八升)ヲ元ノ小作料一石二斗ニ値上ゲセムトシ小作人二十三名ニ通告セシモ小作人之ニ應ゼザリシニ依リ昭和五年六月茲ニ爭議トナレリ

當時小作調停並村當局ノ斡旋ニ依リ右小作人中六名ノ者ハ昭和五年度自作農資金ノ借受ニ依リ、小作地ヲ購入シ同年度收穫物ハ全部買主ノ取得トシテ之ガ一部解決ヲ爲シ、爾來茲ニ端緒ヲ得テ他ノ小作人ニ於テモ自己資金ニヨリ或ハ地方資金ノ融通ヲ受ケ漸次購入シ本件關係爭議モ解決ヲ見ルニ至レリ

此ノ外村内ヲ通ジテ小作爭議トナルベキモノ二十四名ニ資金ヲ貸付シ、爭議ヲ未然ニ防止スルヲ得タリ、之ガ貸付金額二萬四千八百三十圓、創設地八町六反餘歩ニ達セリ

而シテ字猿王部落ノ自作地購入者ハ從來ノ農業經營方法ニテハ折角創設シタル土地モ、資金償還ニ支障ヲ來シ或ハ再ビ小作地ニ還元スルノ虞ナシトセザル實情ナルヲ慮リ昭和六年字猿王部落ノ借受者十一名團結シテ經營改善、生産増殖ニ努力スルコトヲ申合セ、從來ノ農事改良組合ヲ尙一層有意義ナラシムベク借受者中ヨリ組合長、副組合長及組合顧問ヲ各一名選出シ生産増加ニ努力中ナリ

今之ガ概況ヲ述ブルニ從來部落平均反當收量米二石四斗、麥一石六斗ヲ五ヶ年計畫ニテ米三石、麥二石ニ達セシムル爲、農村更生田トシテ八反歩ノ研究試作地ヲ設置シ、農會ノ指導ヲ受クル外、毎月一回部落民集合シ批判討論會ヲ開催シ、又昭和十年度ヨリハ小麥増殖實地指導地ヲ一町三反歩設置シ、専門技術者ノ指導ヲ受ケ益々生産技術ノ向上ヲ計リツツアリ、尙生産費ノ低減ヲ圖ルベク從來金肥米麥作ヲ通ジテ反當十二圓ヲ施用シツツアリシヲ、今後三年計畫ニテ自給肥料ノ増施ニ依リ反當九圓五十錢以内ニ止メシムルコトトシ組合員七十戸中現在飼育四十頭ノ畜牛ヲ耕作反別比較的少ナキ十戸ヲ除キタル他ノ六十戸ニ一戸一頭ノ飼育ニ依リ厩肥ノ増産ヲ爲サシメ、又養鶏現狀一戸十五羽平均、一千五十羽ノ鶏糞ニ依リ金肥ノ施肥額ヲ低減セムト努力シツツアリ

而シテ牛ハ現在五十頭ニ増加シ然モ最近ハ單ニ自給肥料ノ増産ノミナラズ三、四ヶ月間ニ肥育ヲ行ヒ之亦相當ノ純益ヲ擧グルニ至レリ、又從來鶏糞ハ其ノ利用極メテ僅少ナリシモ本計畫樹立以來周到ナル注意ヲ拂ヒ之ガ利用頓ニ増加セリ

尙又生産費低減ノ目的ヨリ米麥ノ調製ハ動力機械ノ設置ニ依リ共同調製ヲ爲シ、且之ヲ有利ニ販賣セムガ爲、村一圓ノ受檢組合ニ依リ農業倉庫ニ於テ生産檢査ヲ受ケ同倉庫ノ斡旋ニ依リ共同販賣ヲ爲ス

次ニ蔬菜ハ村共同作業場ニ於テ毎週月曜日、市場開設セラルルニ依リ、之ガ機關ヲ利用シ比較的有

利ニ販賣シツツアリ

又農業經營費、家計費ノ適正ヲ期スル爲、二十戸ノ代表農家ヲシテ家計簿ノ記帳ヲ爲サシメ、一ケ年後ニ之ガ集計ヲ爲シ次年度計畫樹立遂行ノ參考資料ト爲ス等、農業經營改善ニ努力シツツアリ

○猿王部落農業生産額現況

米 一、〇一三石 麥 五九二石 煙草 二、七〇〇圓 叭 一萬枚ニテ五〇〇圓

麥稈 五五〇〇反ニテ一、一〇〇圓 蔬菜 一、二〇〇圓

四、自作農組合ノ現況

組合設立 昭和六年十一月二十七日

組合員 陶村資金借受人五十九名及其他六名

目的 資金償還ノ確保、組合員ノ互助、農事改良

備荒貯蓄現在高 三、一〇〇圓

償還準備貯蓄 一、五〇〇圓

從來ノ償還狀況 償還ヲ遅延セシモノナシ

役員組合長 村産業組合長

副組合長 村長

活動ノ狀況前項記述ノ通ナリ

五、村勢概要

陶村ハ高松市ノ西南約四里、琴平町トノ中間、琴高電車ノ沿線ニテ僅々三十分ニテ高松ニ至リ交通便ナリ、人口ハ三八五八、世帯數ハ七三二戸アリ、農家ハ六五七戸ニシテ、其他商工業者僅カニ七五戸ノ純農村ナリ

田	四三〇町
畑	九〇
山林	二九〇
口、主要生産物	三七六、二二七
農産物	

愛媛縣

六二、宇摩郡金生村

一、資金貸付概要

畜産物	一九、四七一
副業生産物	二〇、四六二
林産物	四、八二〇
水産物	六六一
鑛工産物	三五、六三一
合計	四五七、二七二
ニシテ一戸當平均六二四圓餘ノ收入アリ	
ハ、宇猿王部落ノ概要	
同部落ハ陶村ノ西北隅ニアリ戸數七〇戸全部農業ニ従事シ耕地面積ハ田四〇町歩、畑一〇町歩ニテ米麥作ヲ主トス	

イ、年度別貸付金額

昭和八年度

三、五〇〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

田

三、三二〇^歩

創設

四二、五〇六

一九人

宅地

九一七

二、事業實施ノ動機及經過

金生村大字山田井字切山ニ土地ヲ所有スル徳島縣撫養町在住地主某ヨリ、關係小作人ニ對シ土地返還ノ請求アリ、之レガ解決トシテ他ニ適當ナル方法ナク土地ヲ關係小作人ニ買取ラシムルコトニ調停成立セシメ、右調停ニ基キ地元村長ハ自作農創設維持資金ノ借受ケノ手續ヲナシ、昭和八年度資金ノ供給ヲ受ケ關係者ニ貸付ケ完全ナル自作農トナシ小作爭議ノ根本的解決ヲナスヲ得タリ、而シテ本件小作爭議ノ概要ヲ述ブルニ其ノ原因トスル處ハ、地主ヨリ小作料ノ増額若ハ關係小作人ニ土地ヲ高價賣付ケノ目的ヲ以テ土地返還ヲ要求シ、若シ返還セザルトキハ現小作料十四石六斗餘ヲ二十石ニ増額スルカ、然ラザレバ土地全部ヲ總額七千三百圓ニテ買取ラムコトヲ要求シ、小作人等ハ右要求ノ何レニモ應ズルヲ得ズトシ、從來ノ小作條件ニテ小作繼續ヲ要求シタルニ在リ、其ノ後ノ

經過ハ地主ハ返還ヲ受クルコトヲ目的トスルモノニアラズシテ眞意ハ小作料ノ増額カ或ハ高價賣付ケニアルモ、小作人ニ於テハ山間僻地ノ天惠ニ乏シキ土地ニシテ寧ロ現状ハ小作料ノ減額ヲ要望スル實情ナレバ小作料ノ増額ニハ應ズルヲ得ズ、又金策ノ見込立タザル爲買取リ不可能ナルノミナラズ地主ノ主張スル價格ハ時價ニ比シ頗ル高額ナレバ之レ又應ズルヲ得ズトシ、結局極メテ不利益ナル條件ナルモ此ノ際ハ不得已トシテ、從來ノ條件ニテ小作繼續方要望セシモ、地主ハ之レヲ承諾セズシテ小作人數名ニ對シ土地返還ノ請求訴訟ヲ徳島區裁判所ニ提起シ小作人敗訴トナリシガ、小作人等ハ控訴ノ手續ヲナスト共ニ松山地方裁判所西條支部ニ關係者全部ヨリ小作繼續ノ調停ヲ申立テタリ、仍テ西條支部ニ於テハ委員會ヲ開設シ審議ノ結果關係小作人ニ土地ヲ買取ラシムルノ外方策ナク、此ノ方針ノ下ニ調停ヲ進メタルガ價格ノ折衝ニ於テ双方ノ懸隔甚シク頗ブル難局ニ陥リタルモ、委員會ヲ開催スルコト五回遂ニ昭和八年十月二十七日委員會ノ適當ト認ムル額三千九百圓ニテ賣買ノ協定成リタリ、之レニ要スル資金ノ調達方法ハ三千九百圓中

三百圓ハ八年度小作料ヲ以テ充當シ

三千五百圓ハ縣ノ自作農資金ノ融通ヲ受ケ

百圓ハ各自己資金支出

三ニ協定シ調停成立セリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

地元村長ハ縣ヨリ自作農資金ノ貸付ケヲ受ケ之レヲ關係小作人ニ貸付ケ、昭和九年三月末所有權ノ移轉登記ヲ完了シ全員自作農トナレリ、同部落ニ於テハ從前ヨリ漸次土地ヲ買取り自作經營ヲナシツツアリシガ、今回ノ施設ニヨリ殆ド全部自作農トナルニ至リ、爾來部落民一致協力シテ農事ノ改良農家經濟ノ更生ニ向ツテ自發的ニ奮闘スルニ至レリ

福岡縣

六三、八女郡古川村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和六年度

二二、三九〇圓

同、八年度

六、九八〇圓

計

二九、三七〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

創設

田

五三四、六〇一^反

四三人

維持

田

一一、八二六

四人

計

田

四六、四二七

四七人

畑

一、八二二

二、事業實施ノ動機及經過

本村地主猪ノ口某ハ自己ノ所有土地ヲ小作人ニ讓渡シ小作人ヲシテ自作農家タラシメントノ意圖ヲ有シ居リタルヲ以テ、村當局モ之ヲ諒トシ本資金ヲ借受ケ小作人等ニ轉貸シ自作農タラシメシモノナリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

イ、本資金借受者等ハ自作農創設組合ヲ創立シ、苗代田一反六畝二十七步ヲ共同購入シ組合員ノ共同苗代田トシ、稲苗ノ改良、病蟲害ノ驅除豫防等ニ至リテハ本村唯一ノ模範ニシテ現在他部落ノ指導組合トナレリ

ロ、精神的方面ニ於テハ共同一致銳意農村更生ニ精勵シ、特ニ共同作業等ニ於ケル親和振ハ他ニ例ヲ見ザル程度ナリ

彼等ノ間ニ於ケル農村愛ノ精神勃興ハ一ニ自作農資金ノ賜物ナリト稱セラル

四、自作農組合ノ現況

本村ニ於テハ自作農創設組合ト稱シ、前記ノ如ク極力共同一致ヲナシ、農事改良ニ、生産ノ増加ニ奮勵シツツアリ、組合員中ノ或者ハ性怠惰ニシテ隣人ヨリノ笑ハレ者ナリシガ、本資金ヲ以テ土地購入後ハ心氣一轉土地改良ニ農作物ノ增收ニ精勵シ其ノ作物ハ群ヲ拔ク程ノ優良ナル成績ヲ示シ居ルヲ以テ嘆賞ノ的トナリ居レリ

此ノ如キ狀況ハ村當局ヲシテ積極的ニ自作農事業ヲ計畫セシムルニ至リ、村内ノ耕地ハ村人ノ所有ニ復シ自作地タラシメント大イニ獎勵シツツアリ

六四、京都郡小波瀨村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和七年度

一五五、三六〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

創設 畑

五二三、〇〇〇^歩

二七人

二、事業實施ノ動機及經過

本資金ノ借受者等ハ隣町行橋町ニ在住小作中ノモノナリシガ、本村内五十二町步餘ノ荒廢セル鹽田アルニ注目シ彼等ハ鹽田利用ニ自信ヲ有セシガ其ノ一部ヲ購入セムトセシモ、九州鹽田會社ニ於テハ分割譲渡ヲナサザル方針ナリシヲ以テ、彼等ハ如何トモナス能ハズ遂ニ村當局ニ歎願シ本資金ノ借受方ヲ依頼セリ、村當局ニ於テモ本地ノ利用ニ注意中ナリシヲ以テ村會ニ諮リ遂ニ本資金ノ借受ヲ爲シ轉貸スルコトトセシモノナリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

勤勉ナル借受者等ハ耕地整理ヲ自家努力ヲ以テ完成シ今日ニ於テハ立派ナル畑ト爲シ、各種蔬菜ノ栽培ヲナシツツアルニ其成績極メテ良好ニシテ、就中西瓜、金甜瓜、甘藷、深葱、馬鈴薯等ハ特產品トシテ北九州市場ニ名聲ヲ博シツツアル有様ニシテ、收益モ亦反當百圓以上ヲ得ツツアリ、此ノ狀況ハ周圍ノ村人ヲ刺戟シ農業經營、栽培ノ改善ニ意ヲ用ヒシムルニ至レリ

四、自作農組合ノ現況

本資金ノ借受者等ハ自作農組合ナル名稱ヲ以テ組合ヲ設立シ居ラザルモ、此レト同様ノ働キヲナス組合ヲ田中與五郎ヲ代表者トシテ作り、償還保證金六千餘圓ヲ積立テ村ニ保管ヲ依頼シ居レリ

六五、南高來郡大三東村

一、資金貸付概要

昭 和 元 年 度	二〇、〇〇〇圓
三 年 度	九、〇〇〇圓
四 年 度	六、〇〇〇圓
計	五三、九〇〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

田	二二二、五二二 <small>反</small>
畑	一四一、三〇二
宅	六、七二四

二、事業實施ノ動機及經過

本事業ヲ實施セシ動機ハ昭和元年本村内ニ土地ヲ所有スル大地主南高來郡島原町清水某ガ、耕地三

十六町七反餘歩ノ賣出ヲナシタル爲茲ニ土地ブローカーノ跳躍スル處トナリ、一方直接賣却ヲ開始シタル爲メ、小作者中ニハ永年親メル小作地ニ離レ全ク生活ノ根據ヲ失フ悲境ニ陥リタルモノモアリテ、遂ニ小作爭議ヲ惹起シ憂慮セラルル事態ニ立至リ、是レガ救済ノ方法トシテ自作農資金借入ノ外途ナシト認メラレタルヲ以テ、昭和元年度ニ於テ本事業ヲ實施シ其後引續キ島原町塚島某ヨリ十四町五反餘歩、湯江村荒木某ヨリ十町六反餘歩、同村森某ヨリ三町八反餘歩、村内早稻田某ヨリ十五町九反餘歩ノ耕地賣出アリタルヲ以テ、順次本資金ヲ以テ小作人ニ買受ケシメ現在迄繼續實施シツツアリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

前述ノ如ク小作者ハ本事業ノ實施ニヨリ自作農資金ノ貸付ヲ受ケ、生活ノ根據タル小作地ヲ取得シ得ルニ至リ人心漸ク安定シ小作爭議ノ如キハ全ク防止セラレタル折柄、昨年島原町塚島某所有土地十七町歩賣却ニ依リ小作問題ヲ惹起シタルモ、自作農資金ノ借受ケヲ得テ現小作人ノ買得スル所トナリ事ナキヲ得タリ、尙償還金ノ返済モ納期迄ニ滞納者一人モナク頗ル良成績ヲ示シ居タルモ穀價ノ激落ニヨリ一部ニ於テ納期ニ聊カ遅延スルモノアルニ至リタル爲、現今全力ヲ傾注シテ自作農組合ノ設立等ニ依リ之ガ改善ヲ圖ラムトシツツアリ

四、村勢概要

四 本村ハ人口六千六百餘人、島原半島ノ北部ニ位シ、東西二里五町南北五十三町全面積千二百七十五町七反餘、住民ノ九割ハ農務ヲ以テ業トシ漁業者、商工業者、其他ヲ合算シテ約一割ニ當レリ、工業ハ織物ノ外觀ルベキモノナシ、産物ハ米、麥、粟、大豆、甘藷之ニ次グニ野菜ニシテ就中牛蒡ハ夙ニ其ノ名アリ、近時繭ノ産出亦尠カラズ殊ニ馬匹及織物ハ其ノ發達ノ起原遠ク漸次改良ヲ加ヘ島原木棉、島原馬ノ代表的産地タリ、縣道ハ海岸平坦地ニ沿フテ横貫シ島原鐵道又之ニ並行シ停車場ハ村内中央ニ江崎、東部ニ松尾ノ二箇所アリ、沿岸ハ多ク和船ヲ寄スルニ足リ殊ニ菅及松尾ニハ船溜ヲ築設シ運輸繫船ノ便良好ニシテ海岸各所ニ起ル數條ノ縱道ハ何レモ車馬ヲ通シ以テ各

部落ヲ縫ヒ合セ山道トナリ遠ク雲仙ニ達ス、郵便局ハ大字三之澤松尾ニアリテ位置南ニ偏スルモ電信電話ノ架設アリテ通信ノ便アリ、繭テ本村ノ現勢ヲ考察スルニ民力ノ疲弊ハ漸次深刻チ加ヘントス、若シ此儘覺醒奮起ノ機ヲ失センカ、將來遂ニ破滅ノ悲境ニ遭遇セザルベカラズ、而シテ其ノ素因ガ當ニ輓近内外經濟界ノ異常ナル不況ニ基因スルノミナラズ、時代ノ推移ハ經濟ノ運營及組織其他各般ニ亘リ根本的改善刷新ヲ要シ、精神作興ハ刻下ノ緊要事タルヲ信ズルニ至リ本村ニ於テハ昭和八年度ヨリ昭和十二年度迄五箇年間第一期トシ計畫ヲ樹立シ以テ更生ヲ期シツツアリ

熊 本 縣

六六、宇土郡戸馳村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額

昭和五年度

四〇、創設維持別反別及人員

一、創設 田

三九、二二〇^歩

七人

二、事業實施ノ動機及經過

自作農創設セル土地ハ宇土郡松合村地主天滿某、大宅某兩名ノ所有地ニシテ、兩名ハ自己ノ住所ヲ距ルコト遠ク之ガ管理ニ甚シク不便ヲ感ジ、且該地ノ小作料低廉ニシテ利益尠キヲ以テ小作人側ニ對シ再三小作料増額ヲ要求スル處アリシモ、何レモ不調ニ終リタル事實アリ、之ガ引上ノ困難ナルヲ看破スルヤ終ニ意ヲ決シ本土地方他ニ賣却スルコトトナレリ、戸馳村ハ宇土半島ヲ離ルル一孤島ニシテ、耕地尠ク殊ニ本創設地タル鯛浦部落ハ此ノ土地ヨリ食糧ヲ得ルノ外途ナキ狀況ニ在リ、萬一之ヲ他ニ賣却耕作セラレンカ、何レモ生業ヲ失フノ結果トナルヤ明カニシテ、本問題ハ正ニ當部落民ノ死活問題トナレリ、茲ニ於テ小作人側ハ數次鳩首協議此ノ難局打開ノ策ヲ攻究セル結果、縣ノ自作農資金借入ニ因ルノ外途ナシト議決シ、縣ニ陳情了解ヲ得將ニ他ニ賣却セラレントスル危機ニ際シ、兩地主ニ對シ自作農資金ニヨリ土地購入シ度キ旨ヲ縷々陳述懇願シ兩地主ノ特別ナル好意ト了解ヲ得、翌昭和五年度ニ右資金ノ貸付ヲ受ケ土地ヲ購入シ自作農トナリ、漸ク其ノ危機ヲ脱シ、農業トシテノ基礎ヲ確立セルモノナリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

創設地ハ購入前濕田ニシテ購入當時ノ反當收量僅カニ玄米五俵内外ニ過ギズシテ、尙二毛作ノ如キハ全ク不可能ナル土地ナリシモ、偶々昭和七年度時局匡救耕地改良擴張事業ニ依ル補助金二百十五圓ヲ得、之ニ本人等負擔金二百十五圓ヲ加ヘ計四百三十圓ヲ以テ灌排水溝ヲ設ケ、且旱害防止ヲ考慮セル暗渠トシタルニ依リ灌漑排水共ニ良好トナリ、前年既ニ反當平均二斗乃至四斗ノ增收ヲ見タルノミナラズ、創設地ノ六割ハ藁苔麥作等ノ裏作栽培可能ノ美田トナリ、一面ニ於テ區劃整理ヲ行ヒ、無用ノ畦畔ヲ除キテ耕地ヲ擴張シ耕作ニ便ナラシメ、購入地ニ接續シタル他ノ原野三反歩ハ冬季農閑ヲ利用シ内六畝歩ハ畑ニ四畝歩ハ水田ニ變換シ、耕地トシテ利用擴張セラルル最大限度ニ於テ各員協心協力以テ克ク之ガ利用ニ努メ、尙土地ノ深耕自給肥料ノ増施ヲ計リ益々生産ノ増加ニ努メツツアリ、

昭和九年夏未曾有ノ旱魃ニ遭遇シ、宇土郡第一ノ旱害地タル戸馳村内ナルニモ拘ラズ其ノ被害最モ僅少ニシテ、平年作ノ七割餘ノ收穫ヲ舉ゲ得タルハ、正ニ組合員豫テノ努力ノ賜ニシテ、現在同村一等ノ水田トシテ恥カシカラヌ面目ヲ具備スルニ至レリ

四、自作農組合ノ現況

右ノ如ク耕地ノ改良擴張、生産ノ増加ニ盡瘁シツツアルノミナラズ、關係者ハ自發的ニ自作農償還

組合ヲ組織シ、年賦金ノ償還ヲ確實ニスル爲、組合員ハ一定ノ玄米ヲ毎年十二月末日限り組合長宅ニ經メ、組合長ハ之ヲ適當ノ時期ニ共同販賣シ、償還期日到来ト共ニ納入スルノ規約ヲ定メ之ヲ嚴ニ實行シ、貸付後未ダ一回ト雖遲滞シタルコトナシ、償還金ニ充當シタル殘餘ノ金額ハ萬一ノ天災不作其他ニ備フル爲、備荒貯蓄ヲ勵行セル結果、昭和九年九月現在高五百十圓ニ達シ其ノ預入先左ノ如シ

信用組合 金七十圓 年六歩

個人貸付 金百九十圓 年一割

郵便貯金 金二百五十圓 年三歩

前記ノ通ナルヲ以テ今年ノ旱害ト雖償還ニ支障ヲ生ズルガ如キ事ナク、縣ノ施設ニ對シ常ニ感謝ノ意ヲ表シ各借受者ハ之ニ報ユ可ク不斷ノ努力ヲ續ケツツアリ、其ノ決意ノ壯ナルハ正ニ他ノ模範トスルニ足ルト信ズ

組合員ハ此ノ光輝アル事業ヲ記念シ、且永久不滅其ノ兒孫ヲシテ良ク其ノ主旨ヲ繼承セシム可ク、自作農創設セル土地ノ路傍ノ荒地ヲ開墾シテ、自作農創設ノ記念碑ヲ建設セリ、(口繪參照)然モ其ノ記念碑ハ組合員自ラ山中ヨリ天然石ヲ運ビ石工ノ經驗アル組合員ガ主トナリ昭和八年二月丈餘ノ見事ナルモノヲ竣工セリ

スル所甚大ナリ
尙購入當時ハ地味頗ル瘠薄ニシテ收量少ク地價モ低廉ナリシガ、購入後ハ頓ニ地力ヲ増進シ收量ニ於テ二、三割ヲ増シ土地價格ノ如キモ四割方騰貴ヲ見ルニ至レリ

三、事業實施ノ概要
自給農聯合 沖繩 縣

六八、島尻郡真和志村

一、資金貸付概要

イ、年度別貸付金額	昭和二年	五、〇〇〇圓	同	六年度	七、五〇〇圓
二、事業同	三年	一、〇〇〇圓	同	七年度	七、〇〇〇圓
同	四年	七、〇〇〇圓	同	八年度	八、〇〇〇圓
同	五年	八、〇〇〇圓	計		五四、五〇〇圓

ロ、創設維持別反別及人員

創設	田	二九一	五二二	一四五人
畑		七	九一六	

二、事業實施ノ動機及經過

本村農家ノ自作農創設維持事業實施前(大正十四年)ニ於ケル狀況ヲ觀ルニ、農家戸數 一、二二六戸
中自作農六六八戸、自作兼小作農二三四戸、小作農三二四戸ニシテ小作農比較的尠キガ如キモ一面
之ガ耕作別戸數ニ至リテハ左記ノ如ク

戸數	五反未満耕作	五反以上同	一町以上同	二町以上同	三町以上同	五町以上同	合 計
	八八四戸	二七四戸	五八戸	六戸	二戸	二戸	一、二二六戸

ニシテ大部分五反歩未満ノ小農ニシテ、之等ハ農業經營上ノ第一要素タル耕作地狭少ナルガ爲生産物少ク、從ツテ生産物ノ收入ノミニテハ到底日常生活ヲ支ヘルコト能ハズ、多クハ日傭労働者ヲ兼ネ辛ウジテ生計ヲ營ムノ状態ニ在リ、加フルニ世界的財界不況ノ影響ヲ受ケテ生産物價格ハ著シク下落シ、農家經濟ハ其ノ收支ノ均衡ヲ失シタル結果債務辨濟ノ爲所有田畑ヲ賣却スル者續出シ、或ハ家計挽回ノ爲旺盛期ノ男女ノ縣外又ハ海外へ出稼スル者激増スル有様ニシテ、而シテ農民生活ハ安定ヲ缺キ、殊ニ收入極メテ尠キ小作農ニ於テ著シク窮乏ヲ告グル状態ニ在リタリ
茲ニ於テ村ハ農村社會上樞要ノ地位ヲ占メ、且農村ノ中堅層ヲ爲ス自作農ノ増加ヲ圖ル爲縣ニ於テ

自作農創設維持事業ノ實施セラレタルヲ期トシ、前記ノ境遇ニ呻吟セル農家ノ救済ヲ講ズル事ニ決シ、昭和二年度ニ於テ本事業ヲ實施シタルトコロ、其ノ成績良好ナルニ鑑ミ毎年之ガ施設ヲ爲シ村民ヲシテ等シク其ノ恩典ニ浴セシメ以テ、自作農創設維持事業ノ目的達成ヲ期シツツアリ

三、事業實施後ノ狀況及其ノ效果

前述ノ如ク農家自體ノ窮狀ハ延テ農村ノ不況ヲ益々深刻ナラシメタルノミナラズ、一般村民ノ氣風漸ク頽廢セムトシ村治上、産業上洵ニ憂フベキ傾向ニアリタルモ、昭和二年縣ニ於テ自作農創設維持事業ヲ開始セシ以來、本村ニ於テモ農家救済ノ見地ヨリ毎年本事業ヲ繼續シ昭和八年度迄ニ金五萬四千五百圓ヲ農家一四五戸ニ對シ貸付シ耕地面積二九町歩ノ創設維持ヲ爲サシメタル結果、從來ノ頽廢氣分一掃サレ意氣大イニ上リ精神的ニ頗ル好影響ヲ及ボセリ、更ニ之ヲ農事改良上ヨリ觀ルニ事業實施直前ト今日ノ自作地面積ハ左記ノ如クニシテ、自作農創設維持事業實施ノ結果ハ數年ヲ出デツシテ著シク耕地所有分配改善セラレタルヲ見ル

大正十四年	耕地面積	一、〇一六、六町
	自作地	四〇一、三町
昭和八年	耕地面積	九六三、五町
	自作地	六三一、四町
	小作地	六一五、三町
		三三二、一町

而シテ自作農創設維持事業ノ成果ハ自作農地取得者ノ事後ノ指導ニアルヲ以テ、本村ニ於テハ係員

及村技手等ヲシテ絶ヘズ資金借受者間ヲ巡廻セシメ、農作物ノ栽培等ニ就キ直接指導ヲナスト共ニ生産物ノ增收ヲ圖リ一意村産業ノ發達ヲ期スコトニ努メツツアリ、且一面ニ於テ本村ハ那覇首里兩市ノ中間ニ位シ平坦ナル地勢ナルヲ以テ兩市ヘノ食糧農産物ノ供給ニ至便ナル地タルノミナラズ、縣外移出農産物ノ栽培ニモ好適セル農村トシテ頗ル地ノ利ヲ占メ居ルヲ以テ、從來ノ小作農ヨリ自作農トシテ土地改良ノ便ヲ得、土地愛護ノ念ヲ深カラシムルト共ニ多角形農業經營ヲ指導シタル結果、左記ノ如ク逐年生産ノ増加ヲ示セリ

○主要生産物

品名	昭和五年		昭和六年		昭和七年		昭和八年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
甘藷	四、三七一、二四〇貫	三、七五〇圓	四、三九一、二〇〇貫	一、七五、一六五圓	五、一六一、四〇〇貫	三、五、六四四圓	五、三三、六〇〇貫	三、五九、七七七圓
砂糖	一、三四六、八八五斤	一〇七、七五一圓	一、六四九、九八八斤	一、一三、五三三圓	二、二七九、二六五斤	一、三六、七五六圓	二、三三九、五三〇貫	一、六、五五七圓
甘蔗	三、一六、九五〇斤	二、四、七三三圓	二、三三七、九六〇斤	九六、二四六圓	二、七七七、八六〇斤	二、九、八〇八圓	二、元、六四一、四八〇斤	一、四一、五三三圓
大豆	一八二石	三、六〇〇圓	二〇二石	二、四二四圓	二三三石	三、〇二九圓	三、四九九圓	四、一八八圓
大根	三三、〇〇〇貫	一、九九八圓	四二、七五〇貫	二、一三六圓	三三、〇〇〇貫	二、五三〇圓	八三、〇〇〇貫	四、九一〇圓
甘藷	四八、六〇〇貫	四、三七四圓	八、〇〇〇貫	六、四〇〇圓	九七、一〇〇貫	一〇、六九二圓	一〇五、〇〇〇貫	一、二、〇〇〇圓
畜産(牛豚)	一、一四八頭	九、六六三圓	八六三頭	六、六四三圓	一、〇〇六頭	八、二二五圓	一、九一九頭	一六、一八九圓
合計		四七〇、六七七圓		四〇二、五七九圓		五九六、七五四圓		七七七、四八四圓

備考 六年度生産額減少シタルハ一部生産物價額下落シタルニヨル

斯如沈滞シタル状態ヨリ現在ノ如キ精神的將又物質的ニ著シキ向上發達ヲ招來シタルハ、一二自作農創設維持事業ノ實施ニ俟ツモノニシテ本施設ニ對シ農民ハ衷心大ニ感謝ノ意ヲ表セリ

四、自作農組合ノ現況

長期ニ亘ル本資金ノ償還確保ヲ期スル外、資金借受者相互ノ共濟ヲ圖リ親睦友和ヲ以テ其ノ福利ヲ増進シ、而シテ村治並産業ノ發達ヲ促進セシムル爲、本村ニ於テハ昭和四年自作農組合ヲ組織シ毎年一定ノ金額(償還金ノ一割)ヲ準備積立ツル事トシ、年賦金ト同時ニ毎年三月十日限り之ヲ組合長ニ納入セリ、尙産業ノ開發ヲ圖ル目的ノ下ニ毎年一回農事懇談會ヲ開クノ外隨時集會等ヲ催シ、組合員相互相戒メ勤勉力行、消費節約ヲ勵行スル等良風ヲ醸成シツツアリ

五、村勢概要

本村ハ那覇、首里兩市ノ中間ニ位シタル農村ニシテ、其ノ面積約一方里人口一四、一八六人ヲ擁シ其ノ密度他ノ町村ニ其ノ比ヲ見ズ、而シテ耕地面積九六五町步中畑九五二町步、田一三町步ニシテ總戸數三二八二戸中農家二四八二戸、其ノ主要物産前表ノ通ニシテ年々生産増加ヲ見ツツアリ
斯ク其ノ位置兩市へ接續セル關係上逐年人口増加セルモ、專業農家ハ農家ノ約七割ニ過ギズ、然ルニ農家ト稱スルモ自作ヲ爲

ス者僅少ニシテ概ネ小作農或ハ自作兼小作農ニシテ農産物收入ヲ以テ生活ヲ支ヘ得ル程ノ收入無キ爲大部分日傭労働ニヨリ辛ウシテ生計ヲ立ツルガ如キ状態ナリ、故ニ數年來ノ不況ト共ニ土地ノ轉賣行ハレ、今迄ノ自作農ヨリ小作農へ墜落シ更ニ日傭農作者トナリ、或ハ縣外出稼ヲナス者多キニ鑑ミ、村ニ於テハ自作農事業ノ實施ト相俟ツテ之ガ防止策ヲ講ジタル爲、村民モ大ニ自覺シ近時農村トシテ更生ノ意氣旺盛ナルノ現況ナリ

而シテ本村ニ於ケル事業實施前後ノ移出入概況ヲ觀ルニ左記ノ通ニシテ著シク其ノ效績ヲ舉ゲツツアルヲ以テ、將來農村社會ノ中堅ヲナス自作農ヲ保護獎勵スルト共ニ産業ノ發展ヲ期シ以テ村民ノ福利ヲ増進セントス

大正十四年	移出總額	移入總額	入超
昭和八年	移出總額	移入總額	出超
	三五、三九八	六九〇、三三三	三三四、八三五
	五四六、〇五九	五三四、〇〇六	一一、〇五三

昭和十年三月二十三日印刷
昭和十年三月二十五日發行

四、自作農組合ノ改良
 其間ニ直ル本資金ノ償還確保ヲ期スル外、資金借受者相互ノ提携ヲ圖リ親睦友和ヲ以テ其ノ福利ヲ増進シ、而シテ村情改良業ノ發達ヲ促進セシムル爲、本村ニ於テ昭和四年自作農組合ヲ組織シ、毎一年一定ノ金額(償還金)ニ對シテ準備積立アル事トシ、年賦金ト同時ニ毎年三月十日限リ之ヲ組合元ニ納入セテ、尙産業ノ開發ヲ圖ル目的ノ下ニ毎年一回農事會議會ヲ開キテ外資時集會等ヲ催シ、且會員相互相成ノ勤勉力行、消費節約ヲ勵行スル等良風ヲ醸成シテマシ

昭和十年三月二十三日印刷
昭和十年三月二十五日發行

昭和十年三月二十三日印刷	昭和十年三月二十五日發行
--------------	--------------

農林省農務局

印刷者 東京市京橋區西八丁堀三丁目七番地 石井精一郎
 印刷所 東京市京橋區西八丁堀三丁目七番地 安信印刷所
 電話京橋二四九四番

10.4.16

東京府二丁目四番

印刷所

文部省印刷局

東京市京橋區西八丁三丁目三番

印刷所

文部省印刷局

東京市京橋區西八丁三丁目三番

農林省農務司

昭和十三年三月二十五日發行

昭和十三年三月二十三日印刷

IF 8M-87





